

■ 参考資料

目 次

■ 第1編 海岸の保全に関する基本的な事項.....	1
1. 海岸の概要	1
◆ 異常潮位（本編P1-21）	1
◆ 水質の経年変化（本編P1-25）	4
◆ 鳥類の地点別出現状況（本編P1-28）	7
◆ 魚類の地点別出現状況と出現種数の経年変化（本編P1-29）	9
◆ 付着生物の鉛直分布状況と出現種数の経年変化（本編P1-30）	11
◆ 底生生物の地点別優占種（本編P1-31）	15
◆ 東京都沿岸6区全体の将来人口の推計結果と年齢構成の推移（本編P1-34） ..	19
◆ 産業および土地利用（本編P1-36）	20
◆ レクリエーション施設（本編P1-39）	21
◆ 海岸におけるイベント（本編P1-40）	31
◆ 学習施設など（本編P1-41）	34
◆ 国の油流対策（本編P1-42）	39
◆ 海域の浄化能力向上のための主な干潟、海浜等の整備（本編P1-42）	40
◆ 関連する諸計画（本編P1-47）	41
2. 海岸区分と海岸保全施設.....	46
◆ 排水機場（本編P1-57）	46

第1編 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸の概要

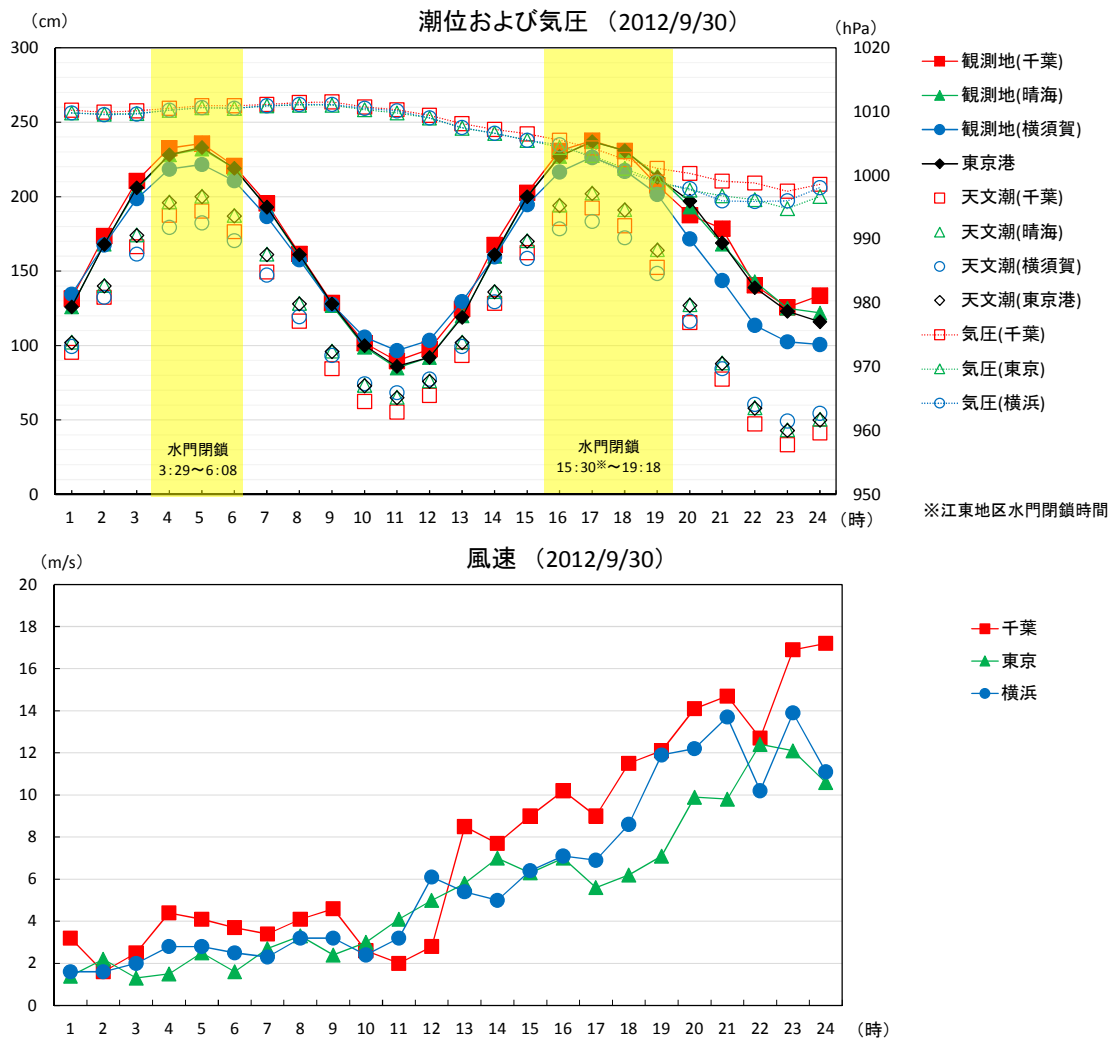
■ 自然的特性

◆ 異常潮位（本編 P 1-21）

異常潮位は東京湾内で広域的に発生しており、2012年9月30日における異常潮位発生時の各観測所の潮位（毎時潮位）は17時が高く AP+2.27m~AP+2.38m、偏差 0.35m~0.45m であり、中でも風速とともに千葉験潮所が最も高い。また、他の時間帯や10月1日の異常潮位発生時においても千葉験潮所の潮位・風速が高い値を示しており、風の吹き寄せ効果が現れていると考えられる。

各地点における潮位・気圧の顕著な差は認められないが、気圧の低下や風速の速さに伴って潮位上昇が発生している。

異常潮位発生事例として、2012年9月30~10月1日の2日間の潮位、気圧、風速を図1-1、表1-1に示し、千葉験潮所（海上保安庁）、東京港波浪観測所（東京都港湾局）、晴海（気象庁）、横須賀験潮所（海上保安庁）の潮位観測位置を図1-2に示す。

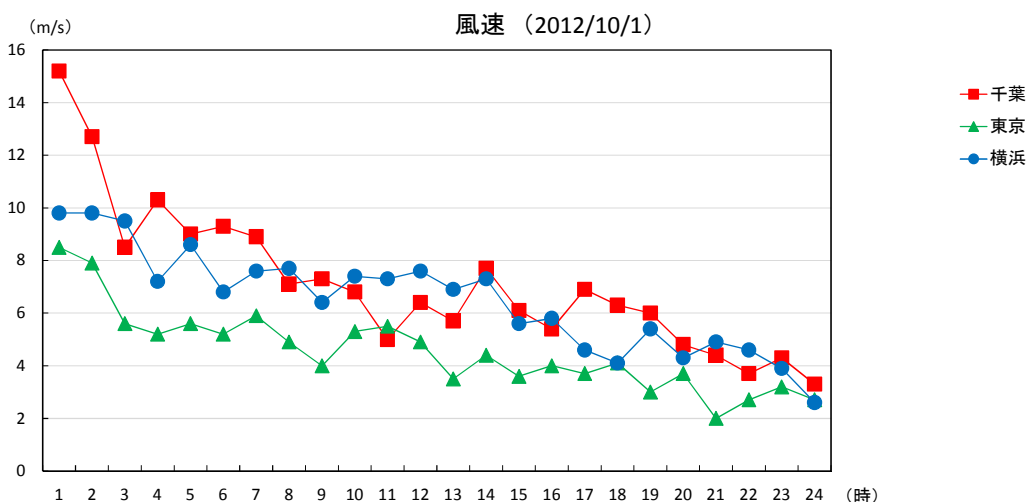
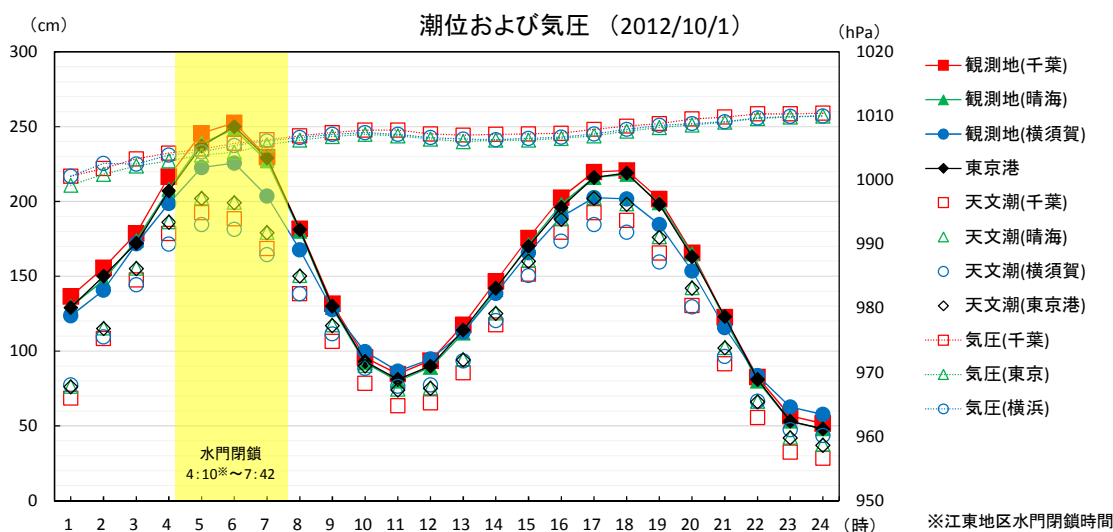


※千葉灯標、晴海、横須賀の潮位データについては、気象庁、海上保安庁のホームページより入手。
 東京港波浪観測所の潮位データについては、東京都港湾局の資料を使用。
 気圧、風速については、気象庁のホームページより入手。

図1-1 (1) 異常潮位発生時の偏差・気圧差の変化及び風速 (2012年9月30日)

表 1-1 (1) 異常潮位発生時の潮位・偏差 (2012年9月30日)

		2012/9/30																								(潮位:A.P.+cm)	
		1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時		
潮位	千葉験潮所	131.6	173.6	210.6	232.6	235.6	220.6	195.6	161.6	128.6	101.6	89.6	97.6	124.6	167.6	202.6	230.6	237.6	230.6	207.6	187.6	178.6	140.6	125.6	133.6		
	晴海験潮所	126.0	168.0	205.0	228.0	232.0	219.0	193.0	160.0	127.0	99.0	85.0	92.0	120.0	160.0	200.0	227.0	237.0	231.0	214.0	193.0	168.0	143.0	125.0	122.0		
	横須賀験潮所	134.6	167.6	198.6	218.6	221.6	210.6	186.6	157.6	127.6	105.6	96.6	103.6	129.6	159.6	194.6	216.6	226.6	217.6	201.6	171.6	143.6	113.6	102.6	100.6		
	東京港波浪観測所	126.0	168.0	206.0	228.0	233.0	219.0	193.0	161.0	128.0	100.0	86.0	92.0	119.0	161.0	200.0	227.0	237.0	231.0	213.0	197.0	169.0	139.0	123.0	116.0		
天文潮	天文潮(千葉)	95.4	132.4	166.4	187.4	190.4	176.4	149.4	116.4	84.4	62.4	55.4	66.4	93.4	128.4	162.4	185.4	192.4	180.4	152.4	115.4	77.4	47.4	33.4	41.4		
	天文潮(晴海)	102.4	140.4	174.4	196.4	200.4	187.4	161.4	128.4	96.4	73.4	65.4	76.4	102.4	136.4	170.4	194.4	202.4	191.4	164.4	127.4	88.4	58.4	43.4	50.4		
	天文潮(横須賀)	99.4	132.4	161.4	179.4	182.4	170.4	147.4	119.4	93.4	74.4	68.4	77.4	99.4	129.4	158.4	178.4	183.4	172.4	148.4	116.4	84.4	60.4	49.4	54.4		
	天文潮(東京港)	102.0	140.0	174.0	196.0	200.0	187.0	161.0	128.0	96.0	73.0	65.0	76.0	102.0	136.0	170.0	194.0	202.0	191.0	164.0	127.0	88.0	58.0	43.0	50.0		
偏差 (cm)	千葉験潮所	36.2	41.2	44.2	45.2	45.2	44.2	46.2	45.2	44.2	39.2	34.2	31.2	31.2	39.2	40.2	45.2	45.2	50.2	55.2	72.2	101.2	93.2	92.2	92.2		
	晴海験潮所	23.6	27.6	30.6	31.6	31.6	31.6	31.6	31.6	30.6	25.6	19.6	15.6	17.6	23.6	29.6	32.6	34.6	39.6	49.6	65.6	79.6	84.6	81.6	71.6		
	横須賀験潮所	35.2	35.2	37.2	39.2	39.2	40.2	39.2	38.2	34.2	31.2	28.2	26.2	30.2	30.2	36.2	38.2	43.2	45.2	53.2	55.2	59.2	53.2	53.2	46.2		
	東京港波浪観測所	24.0	28.0	32.0	32.0	33.0	32.0	32.0	33.0	32.0	27.0	21.0	16.0	17.0	25.0	30.0	33.0	35.0	40.0	49.0	70.0	81.0	81.0	80.0	66.0		



※千葉灯標、晴海、横須賀の潮位データについては、気象庁、海上保安庁のホームページより入手。
 東京港波浪観測所の潮位データについては、東京都港湾局の資料を使用。
 気圧、風速については、気象庁のホームページより入手。

図 1-1 (2) 異常潮位発生時の偏差・気圧差の変化及び風速 (2012年10月1日)

表 1-1 (2) 異常潮位発生時の潮位・偏差 (2012年10月1日)

2012/10/1		1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
潮位	千葉験潮所	136.6	155.6	178.6	216.6	245.6	252.6	229.6	181.6	131.6	95.6	84.6	93.6	117.6	146.6	175.6	202.6	219.6	220.6	201.6	165.6	122.6	82.6	56.6	51.6
	晴海験潮所	130.0	147.0	174.0	208.0	239.0	248.0	227.0	180.0	129.0	92.0	80.0	89.0	112.0	141.0	171.0	198.0	216.0	218.0	199.0	165.0	121.0	80.0	53.0	48.0
	横須賀験潮所	123.6	140.6	171.6	198.6	222.6	225.6	203.6	167.6	127.6	99.6	86.6	94.6	112.6	138.6	165.6	189.6	202.6	201.6	184.6	153.6	115.6	83.6	62.6	57.6
	東京港波浪観測所	129.0	150.0	172.0	207.0	237.0	250.0	229.0	181.0	130.0	93.0	81.0	90.0	114.0	142.0	170.0	196.0	216.0	219.0	198.0	163.0	123.0	81.0	53.0	48.0
天文潮	天文潮(千葉)	68.4	108.4	147.4	178.4	192.4	188.4	168.4	138.4	106.4	78.4	63.4	65.4	85.4	117.4	151.4	179.4	192.4	187.4	165.4	130.4	91.4	55.4	32.4	28.4
	天文潮(晴海)	76.4	115.4	155.4	186.4	202.4	199.4	179.4	150.4	117.4	90.4	74.4	75.4	94.4	125.4	160.4	188.4	202.4	198.4	176.4	142.4	102.4	66.4	42.4	37.4
	天文潮(横須賀)	77.4	109.4	144.4	171.4	184.4	181.4	164.4	138.4	111.4	88.4	76.4	77.4	93.4	120.4	150.4	173.4	184.4	179.4	159.4	129.4	96.4	66.4	47.4	43.4
	天文潮(東京港)	76.0	115.0	155.0	186.0	202.0	199.0	179.0	150.0	117.0	90.0	74.0	75.0	94.0	125.0	160.0	188.0	202.0	198.0	176.0	142.0	102.0	66.0	42.0	37.0
偏差 (cm)	千葉験潮所	68.2	47.2	31.2	38.2	53.2	64.2	61.2	43.2	25.2	17.2	21.2	28.2	32.2	29.2	24.2	23.2	27.2	33.2	36.2	35.2	31.2	27.2	24.2	23.2
	晴海験潮所	53.6	31.6	18.6	21.6	36.6	48.6	47.6	29.6	11.6	1.6	5.6	13.6	17.6	15.6	10.6	9.6	13.6	19.6	22.6	22.6	18.6	13.6	10.6	10.6
	横須賀験潮所	46.2	31.2	27.2	27.2	38.2	44.2	39.2	29.2	16.2	11.2	10.2	17.2	19.2	18.2	15.2	16.2	18.2	22.2	25.2	24.2	19.2	17.2	15.2	14.2
	東京港波浪観測所	53.0	35.0	17.0	21.0	35.0	51.0	50.0	31.0	13.0	-3.0	7.0	15.0	20.0	17.0	10.0	8.0	14.0	21.0	22.0	21.0	21.0	15.0	11.0	11.0



図 1-2 観測位置図

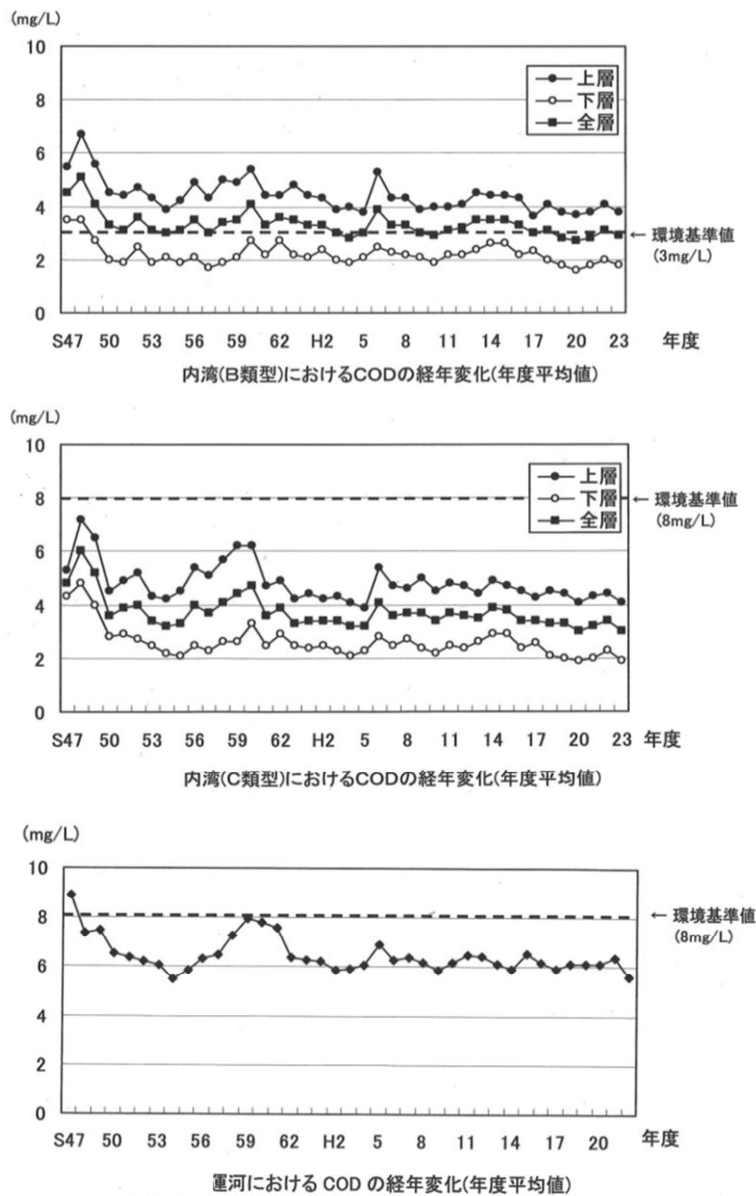
◆水質の経年変化（本編P1-25）

経年的な変化では、内湾におけるCOD（全層）に変動があるものの、横ばい傾向で推移しており、平成20年度からは微増傾向にあったが平成22～23年度にかけては減少した。全窒素*（上層）は平成13～17年度までは減少したが18年度からは横ばい、また全りん*（上層）は横ばい傾向にある。

運河のCODは、昭和60年度からは改善に転じたが、平成2年度以降はほぼ横ばいで推移、全窒素は平成元年度以降は改善傾向がみられるものの環境基準値（□類型：1mg/L）の5倍以上高い状態が続いている。全りんの経年変化についても多少の変動はみられるものの、平成57年度以降はほぼ横ばい状態で推移している。

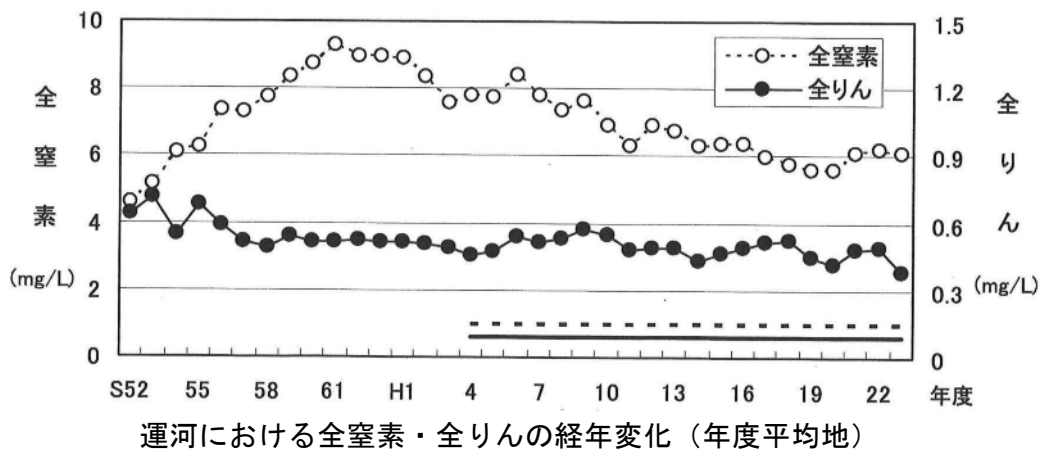
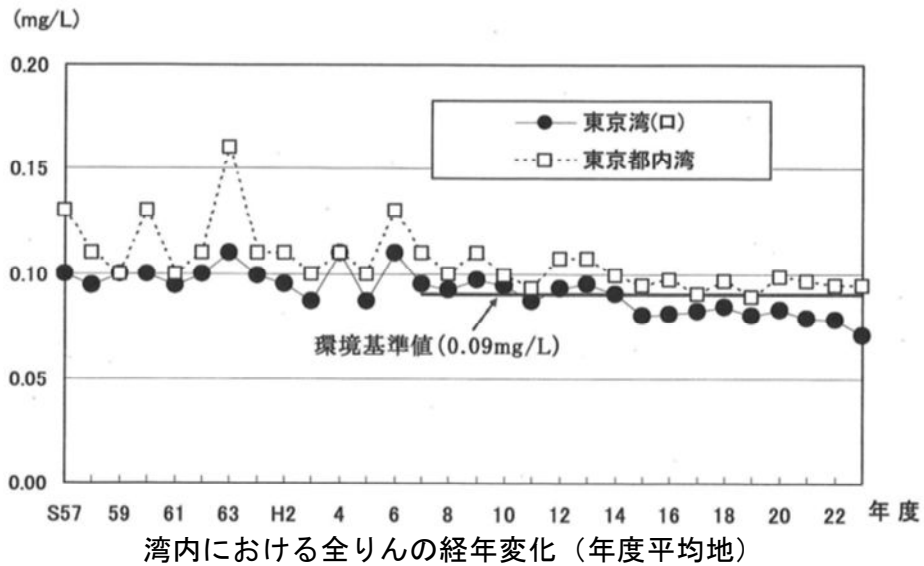
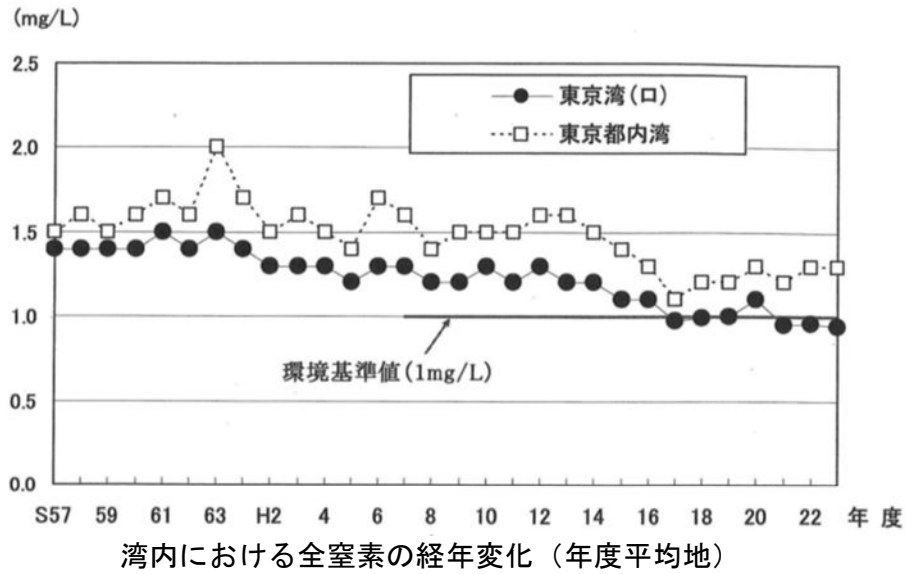
COD、全窒素、全りんの経年変化をそれぞれ図1-3、図1-4に示す。

※全窒素、全りん：水中に生息する生物に必要な栄養塩類。全窒素、全りんの濃度が過度に高くなるとその海域は富栄養化した状態となる。



出典：平成23年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 東京都環境局

図1-3 CODの経年変化



出典：平成 23 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 東京都環境局

図 1-4 全窒素、全りんの経年変化

<参考> 環境基準（海域）

ア

類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的 酸素要求量 (COD)	溶 存 酸 素 量 (DO)	大 腸 菌 数	ノルマル ヘキサン 抽出物
A	水産1級、水浴、自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/l 以下	7.5mg/l 以上	1,000 MPN/100 ml 以下	検出されないこと
B	水産2級、工業用水及びC欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/l 以下	5mg/l 以上		検出されないこと
C	環 境 保 全	7.0以上 8.3以下	8mg/l 以下	2mg/l 以上		

(注) 1 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70MPN/100mL以下とする。

- 2 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 3 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
水産2級：ボラ、ノリ等の水産生物用
- 4 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩道を含む。）において不快感を生じない限度

イ

類型	利用目的の適応性	基準値	
		全 窒 素	全 り ん
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.2mg/l 以下	0.02mg/l 以下
II	水産1種、水浴及びIII以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.3mg/l 以下	0.03mg/l 以下
III	水産2種及びIVの欄に掲げるもの (水産3種を除く。)	0.6mg/l 以下	0.05mg/l 以下
IV	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1 mg/l 以下	0.09mg/l 以下

(注) 1 基準値は、年間平均値とする。
2 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。

- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 3 水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される
水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される
水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される
- 4 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

◆鳥類の地点別出現状況（本編P 1-28）

表 1-2 鳥類の地点別出現状況

番号	目	科	種名	和名	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	重要種 選定基準				
								文化財保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL	東京都*3 RL(区)	
1	カイツブリ	カイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	ハジロカイツブリ	●							
2			<i>Podiceps cristatus</i>	カンムリカイツブリ	●		●					*
3	ペリカン	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	●	●	●					
4	コウノトリ	サギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ		●						
5			<i>Egretta alba</i>	ダイサギ	●	●	●					VU
6			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	●	●	●					VU
7			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	●	●	●					
8	カモ	カモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ	●		●					
9			<i>Anas poecilorhyncha</i>	カルガモ	●	●	●					
10			<i>Anas crecca crecca</i>	コガモ			●					
11			<i>Anas strepera</i>	オカヨシガモ			●					
12			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ			●					
13			<i>Anas acuta</i>	オナガガモ	●	●	●					
14			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ			●					
15			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ		●	●					
16			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ			●					
17			<i>Aythya marila</i>	スズガモ	●	●						*
18	タカ	タカ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	●	●	●				NT	EN
19	ツル	クイナ	<i>Fulica atra</i>	オオバン		●	●					VU
20	チドリ	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	ミヤコドリ	●							EN
21		チドリ	<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ	●		●					VU
22			<i>Charadrius alexandrinus</i>	シロチドリ	●		●					VU
23			<i>Charadrius mongolus</i>	メダイチドリ	●		●					NT
24			<i>Pluvialis fulva</i>	ムナグロ	●		●					VU
25			<i>Pluvialis squatarola</i>	ダイゼン	●							VU
26		シギ	<i>Arenaria interpres</i>	キョウジョシギ	●	●	●					VU
27			<i>Calidris ruficollis</i>	トウネン	●							NT
28			<i>Calidris alpina</i>	ハマシギ	●							NT
29			<i>Tringa nebularia</i>	アオアシシギ	●							NT
30			<i>Heteroscolus brevipes</i>	キアシシギ	●	●	●					VU
31			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ	●	●	●					VU
32			<i>Xenus cinereus</i>	ソリハシシギ	●							VU
33			<i>Limosa lapponica</i>	オオソリハシシギ	●							EN
34			<i>Numenius arquata</i>	ダイシャクシギ	●							CR
35			<i>Numenius madagascariensis</i>	ホウロクシギ	●						VU	CR
36			<i>Numenius phaeopus</i>	チュウシャクシギ	●		●					VU
37		カモメ	<i>Larus ridibundus</i>	ユリカモメ	●	●	●					
38			<i>Larus argentatus</i>	セグロカモメ	●	●	●					
39			<i>Larus schistisagus</i>	オオセグロカモメ	●	●	●					
40			<i>Larus canus</i>	カモメ	●	●	●					
41			<i>Larus crassirostris</i>	ウミネコ	●	●	●					
42			<i>Chlidonias leucopterus</i>	ハジログロハラアジサシ	●							
43			<i>Chlidonias hybridus</i>	クロハラアジサシ	●							
44			<i>Sterna hirundo</i>	アジサシ	●							
45			<i>Sterna albifrons</i>	コアジサシ	●	●	●			国際	VU	EN
46	スズメ	セキレイ	<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ		●	●					
計 8目11科46種					37種	21種	31種	0種	1種	3種	24種	

※ 種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第6版」（日本鳥学会，2000）に従った。

*1 種の保存法 国際：国際希少野生動物植物

*2 環境省レッドリスト VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

参照：http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

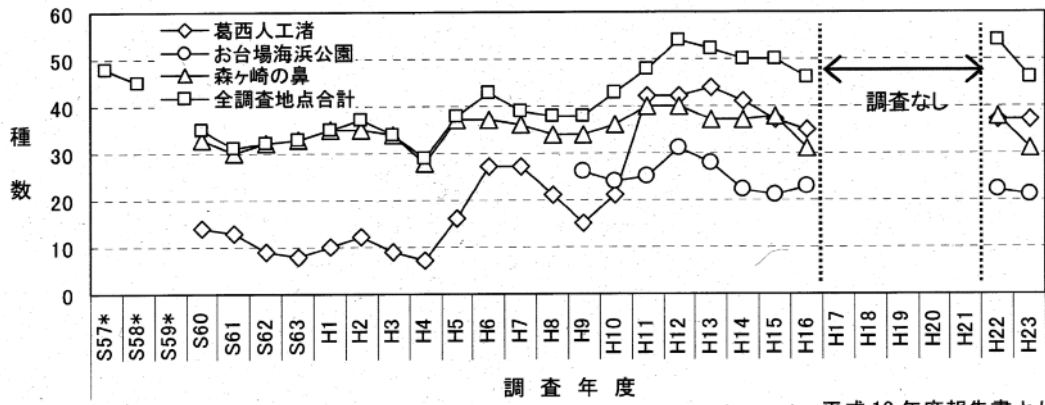
環境省自然環境局野生生物課。2002年。改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-2 鳥類。環境省自然環境局野生生物課。2006年。改訂版レッドリスト。

3 東京都レッドリスト CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、：留意種

参照：http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/sizen/rdb/top.htm

東京都環境局自然環境部。2010年。東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版。

出典：平成23年度水生生物調査結果報告書（東京都湾内湾） 東京都環境局



* : 平成10年度報告書より引用

出典：平成23年度 水生生物調査結果報告書（東京都内湾）平成25年3月 東京都環境局

図1-5 鳥類確認種数の経年変化

◆魚類の地点別出現状況と出現種数の経年変化（本編P1-29）

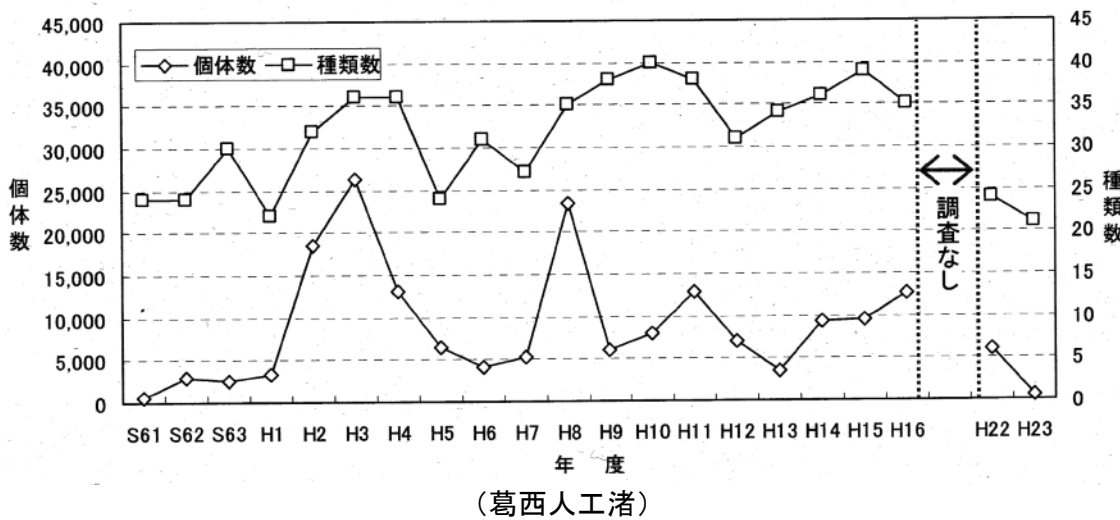
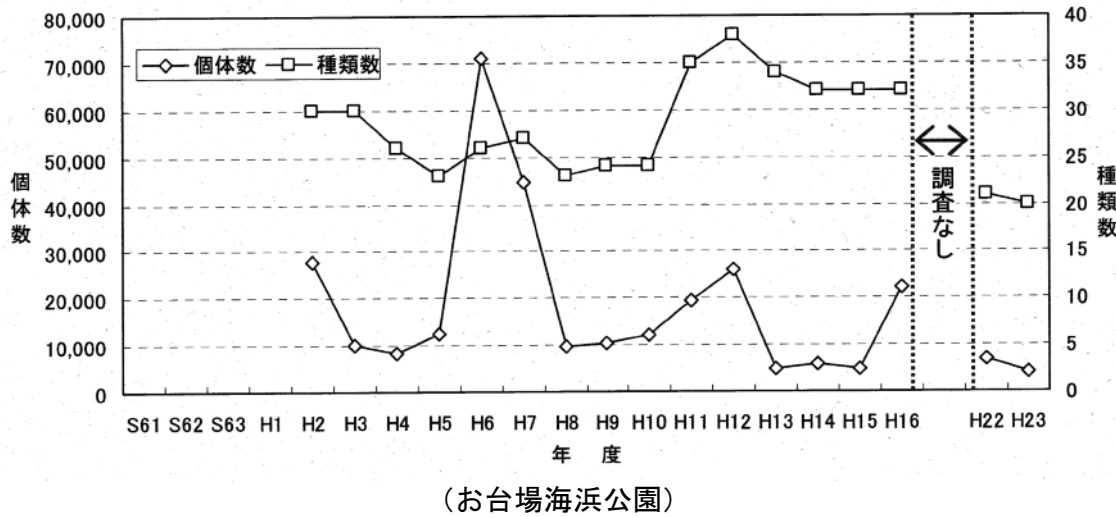
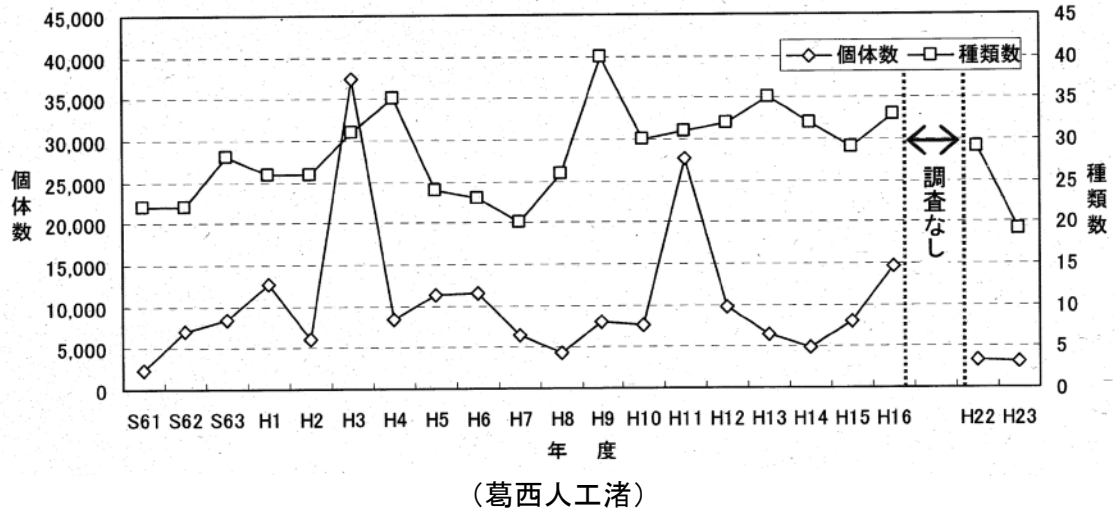
表 1-3 海域魚類の地点別出現状況

(平成23年度)

No.	目	科	種名	ビームトロール				小型地曳網		
				St.22	St.25	St.35	St.10	葛西人工渚	お台場海浜公園	城南大橋
1	エイ	アカエイ	アカエイ		○			◎	○	
2	ニシン	ニシン	サツバ					○		
3			コノシロ					○		
4		カタクチイワシ	カタクチイワシ			○				
5	カライワシ	カライワシ	カライワシ					○		
6	サケ	アユ	アユ					◎	○	○
7	コイ	コイ	マルタ						○	
8			ウグイ属					○		○
9	ヨウジウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ							○
10	スズキ	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ							○
11		ボラ	メナダ属					○		
12			ボラ					●	●	●
13		テンジクダイ	テンジクダイ			○				
14		スズキ	スズキ					◎	●	◎
15		ニベ	シログチ			○				
16		キス	シロギス							◎
17		タイ	クロダイ						○	
18		シマイサキ	コヒキ					○	○	
19		イボダイ	イボダイ		○					
20		ハゼ	マハゼ					●	●	●
21			アシシロハゼ					◎	◎	
22			スジハゼ							○
23			ビリンゴ					●	◎	◎
24			ニクハゼ						○	
25			エドハゼ					●	○	◎
26			スミウキゴリ						○	
27			ウキゴリ属					◎	●	○
28			ヒモハゼ					○		○
29			ヒメハゼ					◎	◎	◎
30			マサゴハゼ							○
31			チチブ属						○	
32			ハゼ科					○		○
33	カサゴ	フサカサゴ	メバル属						○	
34			コチ					○	○	○
35	ウバウオ	ネズッコ	ハタタテヌメリ	◎	○	◎	○		○	
36	カレイ	カレイ	イシガレイ					○	○	○
37			マコガレイ				○			○
38	フグ	ギマ	ギマ							○
39		フグ	クサフグ							○
種類数合計				1	3	4	2	19	20	21

注)年間の出現個体数合計が、●:100個体以上、◎:99~10個体、○:9~1個体であることを示す。

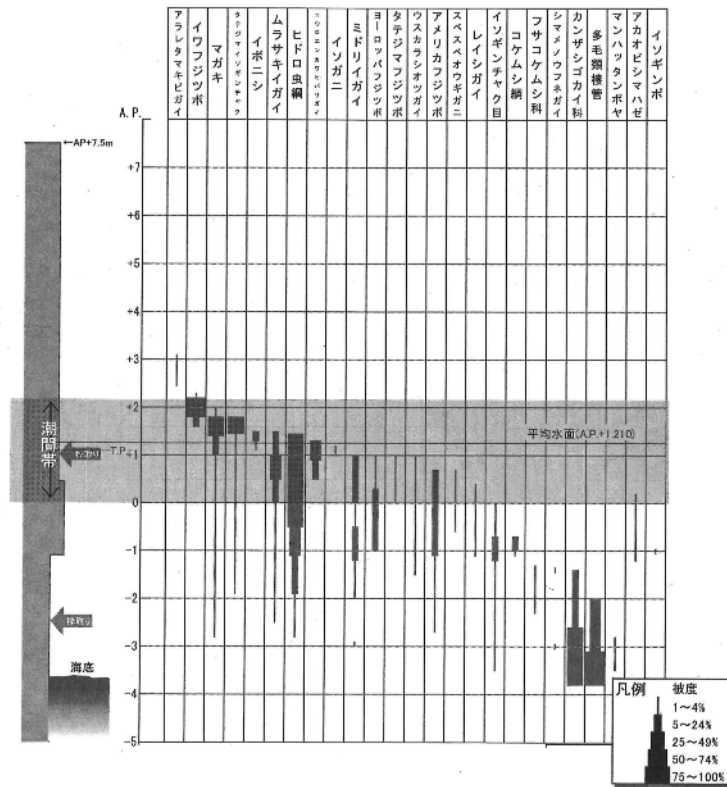
出典：平成23年度 水生生物調査結果報告書（東京都湾内湾） 東京都環境局



出典：平成 23 年度 水生生物調査結果報告書（東京都湾内湾） 東京都環境局

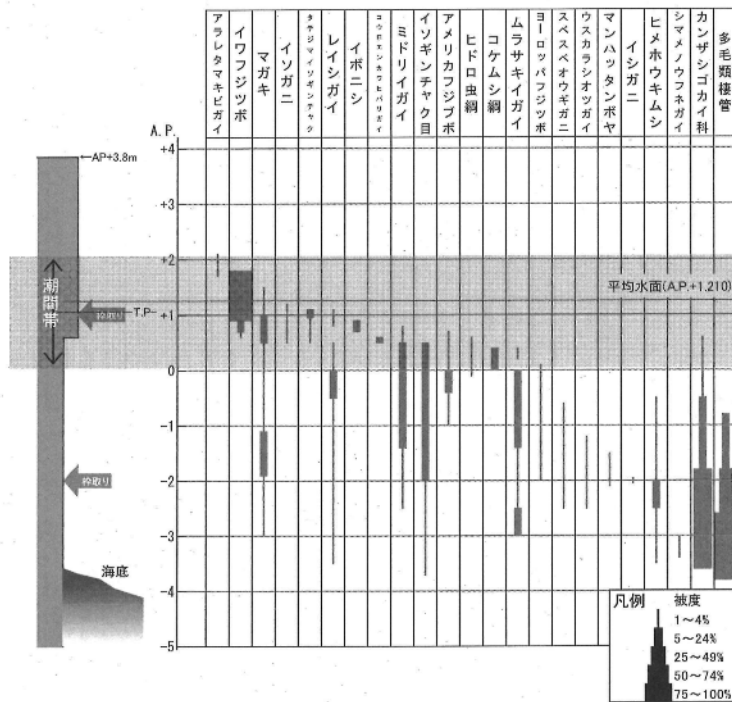
図 1-6 稚魚調査における魚類出現状況の経年変化

◆付着生物の鉛直分布状況と出現種数の経年変化（本編P1-30）



出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

図 1-7 (1) 付着動物鉛直分布状況（中央防波堤外側）



出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

図 1-7 (2) 付着動物鉛直分布状況（13号地船着場）

表 1-4 (1) 附着動物出現種経年変化

番号	門	綱	目	科	種名	年 度																		
						昭和			平成															
						61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	22	23	
1	海綿動物	—	—	—	海綿動物門																			
2	腔腸動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫	ウミサカズキガヤ	ウミサカズキガヤ科																		○	○
3					ヒドロ虫綱																			
4		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク																			
5				ンチャク	イソギンチャク目	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	—	多岐腸目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	紐形動物				紐形動物門	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	環形動物	多毛	遊在	ノロコイソメ	Dorvillea sp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
9					ルドルフィンメ																		○	
10				イソメ	Eunice sp.					○						○	○						○	
11				オトヒメゴカイ	Ophiodromus sp.	○	○	○	○	○			○	○			○							
12					オトヒメゴカイ科	○						○	○									○	○	
13				ゴカイ	アシナガゴカイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14					オウギゴカイ																			
15					ヒグプトゴカイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16					マサゴゴカイ																		○	○
17					ヤスリゴカイ																		○	○
18					クマドリゴカイ	○										○		○	○	○	○	○	○	○
19					デンガクゴカイ																		○	○
20					Pseudonereis sp.																			
21					ゴカイ科																			
22				ナナテイソメ	スゴカイイソメ																○	○		
23				サシバゴカイ	Eulalia sp.																			○
24					アケノサシバ	○		○															○	○
25					サシバゴカイ科																			
26				カギゴカイ	ハナオカカギゴカイ				○															
27				ウロコムシ	マダラウロコムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28					Harmothoe sp.																			○
29					ウロコムシ科																			
30				シリス	Typosyllis sp.																			○
31					シリス科	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32			定在	イトゴカイ	Capitella capitata	○	○			○			○								○			
33					イトゴカイ科																			
34				ミズヒキゴカイ	Acrocirrus sp.				○															
35					Cirratulus sp.																			○
36					ミズヒキゴカイ																			○
37					Cirriformia sp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38					Dodecaceria sp.																			○
39				ケヤリ	ケヤリ科	○			○														○	○
40				カンザシゴカイ	ナデシコカンザシ																			○
41					エノカサネカンザシゴカイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42					ホソトゲカンザシゴカイ																			○
43					Hydroides sp.	○																		○
44					Spirobranchus sp.																			○
45					カンザシゴカイ科																			
46				スピオ	Polydora sp.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47					Prionospio cirrifera	○	○	○	○															
48					イトエラスピオ																			
49					Prionospio sp.																			○
50				フサゴカイ	Amphitrite sp.									○										
51					Streblosoma sp.																			
52	触手動物	筍虫	筍虫	ホウキムシ	Phoronis sp.	○	○	○																○
53		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ科	○	○		○															○
54					苔虫綱	○																		○
55	軟体動物	腹足	中腹足	カリバガサガイ	シマメノウフネガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56				オニノツノガイ	シマハマトツボ																			
57				タマキビガイ	タマキビガイ				○															
58			新腹足	アケキガイ	アカニシ																			
59					レイシガイ																			
60					イボニシ				○															
61					アケキガイ科																			
62				タモトガイ	ムギガイ																			
63			裸鰓	オシヨロミノ	Cuthona perca	○	○																	
64				ウミウシ	ミノウミウシ亜目																			
65					裸鰓目																			
66					腹足綱 卵																			

出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

表 1-4 (2) 付着動物出現種経年変化

番号	門	綱	目	科	種名	年 度																							
						昭和			平 成																				
						61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	22	23						
67	軟体動物	二枚貝	真多歯	フネガイ	サルボウガイ																								
68					フネガイ科																								
69			翼形	ナミマガシワガイ	ナミマガシワガイ	ナミマガシワガイ																							
70						イガイ	コウロエンカワヒバリガイ	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
71							ホトトギスガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
72							タマエガイ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
73							ムラサキイガイ	◎	◎	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
74							ミドリイガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
75			イタボガキ	マガキ	イタボガキ科	マガキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
76																													
77			異歯	マゴコロガイ	イガイダマシ	イガイダマシ																							
78						イワホリガイ	ウスカラシオツガイ																						
79							シオツガイ																						
80							イワホリガイ科																						
81			無面	マルスダレガイ	アサリ	アサリ	○		○																				
82						キヌマトイガイ	キヌマトイガイ																						
83						エゾオオノガイ	エゾオオノガイ科																						
84							二枚貝綱																						
85			節足動物	海蜘蛛	真皆脚	ホソウミグモ	ホソウミグモ科																						
86								海蜘蛛綱																					
87	甲殻	完胸					フジツボ	シロスジフジツボ																					
88								タテジマフジツボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
89								アメリカフジツボ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
90								ヨーロッパフジツボ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
91								ドロフジツボ	○																				
92								サンカクフジツボ																					
93								イワフジツボ	イワフジツボ	○																			
94								コノハエビ	コノハエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
95								等脚	コツブムシ	シリケンウミセミ	シリケンウミセミ																		
96											イソコツブムシ	○																	
97	イソコツブムシ属																												
98	コツブムシ科																												
99	端脚	アンフィロークス					アンフィロークス科	アンフィロークス科																					
100								ヒゲナガヨコエビ	Ampithoe sp.	○		○																	
101								ドロクダムシ	ドロクダムシ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
102								ヨコエビ	メリタヨコエビ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
103								モクズヨコエビ	フサゲモクズ	◎																			
104									Hvale sp.	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
105								タテソコエビ	タテソコエビ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
106									ヨコエビ亜目																				
107								ワレカラ	Caprella sp.	○	○	○	○																
108								十脚	モエビ	モエビ科	モエビ科																		
109	テナガエビ	ユビナガスジエビ																											
110	カニダマシ	カニダマシ科																											
111	イワガニ	ケフサイソガニ					○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
112		イソガニ					○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
113		タカノケフサイソガニ																											
114		イソガニ属																											
115		イワガニ科																											
116	クモガニ	イッカククモガニ																											
117		クモガニ科																											
118	オウギガニ	スベスベオウギガニ					シワオウギガニ	シワオウギガニ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
119								スエヒロガニ																					
120								オウギガニ科																					
121								短尾下目	メガロバ幼生	○																			
122																													
123	昆虫	トビムシ					トビムシ目	トビムシ目	○	○	○																		
124								双翅	ガガンボ	ガガンボ科 幼虫																			
125	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	チビクモヒトデ	Ophiactis sp.																								
126	原索動物	尾索	腸性	キオナ	カタユウレイボヤ	○																							
127						Ciona sp.																							
128					壁性	モルグラ	マンハッタンボヤ	マンハッタンボヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
129								モルグラ科																					
130								シロボヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
131	脊椎動物	硬骨魚	スズキ	イソギンボ	イソギンボ科	○	○																						
種類数						48	43	30	46	48	31	51	54	35	51	46	56	43	51	50	55	63	49						

注：○は出現種、●は海域別合計個体数の第1位、◎は第2～5位を示す。

出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

表 1-5 付着動物調査（経年データにおける外来種の出現状況）

〔個体数〕

動物門	綱	種名	H61	H62	H63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H22	H23		
環形	多毛	ナデシコカンザシ																	△	△		
軟体	腹足	シマメノウフネガイ		△		△	△	◎	◎	○	△	○		○	△		△	○	△	△		
		<i>Cuthona perca</i>																		△	△	
	二枚貝	ムラサキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	○	
		コウロエンカワヒバリガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		ミドリイガイ		○		△	●	○	◎	△	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	△
		ウスカラシオツガイ									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	シオツガイ									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
節足	甲殻	タテジマフジツボ	○	△	◎	◎	●	○	●	◎	○	◎	◎	◎		○	◎	○	○	●	◎	
		アメリカフジツボ	●	●	◎	●	●	○	●	◎	●	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ヨーロッパフジツボ			◎	●	○	△	●	◎		○	○	○			◎	○	○	○	○	●
		イッカクモガニ																			△	△
原索	尾索	マンハッタンボヤ	○	○	○	○	○	△	○	○		△	○	◎	○			○	△	△	○	
種類数			5	7	6	8	8	8	8	9	7	9	8	8	8	7	7	9	12	10		

注:「△」は10個体以下、「○」は11~100個体、「◎」は101~1000個体、「●」は1001個体以上を示す。

〔湿重量〕

動物門	綱	種名	H61	H62	H63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H22	H23	
環形	多毛	ナデシコカンザシ																	△	△	
軟体	腹足	シマメノウフネガイ		○		○	△	○	◎	◎	◎	○		○	△		○	○	○	○	
		<i>Cuthona perca</i>																		△	△
	二枚貝	ムラサキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	◎
		コウロエンカワヒバリガイ	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	◎	○
		ミドリイガイ		◎		△	●	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ウスカラシオツガイ									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	シオツガイ									◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
節足	甲殻	タテジマフジツボ	◎	△	○	◎	●	△	●	◎	○	◎	◎	◎		△	◎	○	○	●	○
		アメリカフジツボ	●	●	◎	●	◎	△	●	○	●	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ヨーロッパフジツボ			◎	●	△	△	◎	◎		○	○	○			◎	△	△	○	◎
		イッカクモガニ																		△	△
原索	尾索	マンハッタンボヤ	○	○	○	◎	○	○	◎		○	◎	◎	◎	◎			○	△	△	

注:「△」は1g以下、「○」は1gより多く10g以下、「◎」は10gより多く100g以下、「●」は100g以上を示す。

出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

◆底生生物の地点別優占種（本編P1-31）

表1-6 底生生物の地点別優占種

(平成23年度)

区域	調査地点	時季	第一優占種	第二優占種	第三優占種	出現種数	出現個体数
内湾部	St. 5	春季	<i>Capitella capitata</i> (79)	シズクガイ (27)	<i>Nebalia</i> sp. (8)	20	146
		夏季				0	0
	St. 22	春季	チヨノハナガイ (77)	<i>Voorwindia</i> sp. (33)	ケシトリガイ (14) シズクガイ (14)	11	149
		夏季				0	0
	St. 25	春季	オウギゴカイ (8)	<i>Voorwindia</i> sp. (2)	チヨノハナガイ (1)	3	11
		夏季				0	0
St. 35	春季	スペースハネエラスピオ (16)	チヨノハナガイ (8)	シノブハネエラスピオ (4)	10	38	
	夏季				0	0	
浅海部	St. 10	春季	ホソトゲカンザシゴカイ (288)	<i>Nicolea</i> sp. (65)	カタマガリギボシイソメ (50)	64	800
		夏季	シノブハネエラスピオ (357)	カタマガリギボシイソメ (52)	ウスカラシオツガイ (45)	13	529
	三枚洲	春季	ミツオビクーマ (29)	<i>Mediomastus</i> sp. (25)	無針綱 (22)	9	105
		夏季	シノブハネエラスピオ (411)	<i>Mediomastus</i> sp. (26)		10	502
河口部	St. 31	春季	シズクガイ (133)	<i>Tharyx</i> sp. (12)	<i>Mediomastus</i> sp. (11)	28	219
		夏季	シノブハネエラスピオ (193)	クシカギゴカイ (49)		17	282
	No. 12	春季	ニホンドロソコエビ (204)	アシナゴゴカイ (48)	イトエラスピオ (26)	13	332
		夏季				0	0
干潟部	葛西人工渚	春季	<i>Heteromastus</i> sp. (18)	アサリ (12)	ツツオオフエリア (8)	16	71
		夏季	ドロオニスピオ (7)			10	37
			シオフキガイ (7) アサリ (7)				
	お台場海浜公園	春季	カワゴカイ属 (16)	アサリ (14)	コケゴカイ (2)	3	32
		夏季	ホトトギスガイ (130)	アシナゴゴカイ (37)	コウロエンカワヒバリガイ (26)	16	251
	城南大橋	春季	ドロオニスピオ (422)			15	460
		夏季	<i>Polydora</i> sp. (74)	ホトトギスガイ (54)	アシナゴゴカイ (35)	18	248
	森ヶ崎の鼻	春季	ドロオニスピオ (178)	カワゴカイ属 (119)	ホソエリタテスビオ (42)	23	405
		夏季	シノブハネエラスピオ (10)	<i>Heteromastus</i> sp. (8)	ホンビノスガイ (4)	14	40
	大井ふ頭中央海浜公園	春季	カワゴカイ属 (136)	ドロオニスピオ (33)	ヤマトスビオ (16)	23	249
		夏季	アサリ (28)	ホンビノスガイ (11) カガミガイ (11)		11	65
	羽田沖浅場	春季	ドロオニスピオ (100)	ムラサキイガイ (13)		7	118
		夏季	アサリ (338)	<i>Eteone</i> sp. (60)		18	490
	中央防波堤外側浅場	春季	ドロクダムシ属 (374)	エソカサネカンザシゴカイ (182)	ホトトギスガイ (43)	44	828
		夏季	クシカギゴカイ (26)	ウスカラシオツガイ (19)	ルドルフイソメ (11)	12	81
	多摩川河口干潟	春季	カワゴカイ属 (127)	ドロオニスピオ (46)	ヤマトシジミ (16)	11	214
		夏季	カワゴカイ属 (142)	ヤマトシジミ (46)	ニホンドロソコエビ (11)	10	216
	護岸部	芝浦アイランド	春季	メリタヨコエビ属 (1)			1
夏季						0	0
豊洲ミニ磯場		春季	アシナゴゴカイ (98)	コウロエンカワヒバリガイ (82)	ホトトギスガイ (46)	30	417
		夏季	イソギンチャク目 (8)	クシカギゴカイ (4)	シノブハネエラスピオ (1) ホンビノスガイ (1)	4	14
砂町ミニ磯場		春季	コウロエンカワヒバリガイ (222)	ドロクダムシ属 (112)	<i>Polydora</i> sp. (110)	18	655
		夏季	コウロエンカワヒバリガイ (256)	アシナゴゴカイ (65)		10	363
有明北運河		春季	コウロエンカワヒバリガイ (647)	カワゴカイ属 (265)	<i>Heteromastus</i> sp. (166)	25	1,435
		夏季	コウロエンカワヒバリガイ (1,653)	アシナゴゴカイ (174)		12	1,993

注1 種名右の()内は、個体数を示す。

注2 シノブハネエラスピオは、以前の *Paraprionospio* sp. A、に該当する。

注3 スペースハネエラスピオは、以前の *Paraprionospio* sp. CI に該当する。

出典：平成23年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

表 1-7 (1) 底生生物調査 (出現種年間リスト)

調査年月: 平成23年5月(春季)、9月(夏季)

番号	門	綱	目	科	種名	和名	春季	夏季
1	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	ムシモドキギンチャク	Edwardsiidae	ムシモドキギンチャク科	○	○
2					Actiniaria	イソギンチャク目	○	○
3	扁形動物	渦虫	多岐腸		Polyclada	多岐腸目	○	○
4	紐形動物	無針	異紐虫		Heteronemertini	異紐虫目	○	○
5					ANOPLA	無針綱	○	○
6		有針	針紐虫	テトラステマ	<i>Tetrastemma nigrifrons</i>	メノコヒコムシ	○	○
7					Hoploneurini	針紐虫目	○	○
8	環形動物	多毛	遊在	ノリコイソメ	<i>Schistomeringos rudolphi</i>	ルドルフイソメ	○	○
9				チロリ	<i>Glycera alba</i>	アルバチロリ	○	○
10					<i>Glycera macintoshi</i>	マキントシチロリ	○	○
11				ニカイチロリ	<i>Glycinde</i> sp.		○	○
12				オトヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.		○	○
13					<i>Podarkeopsis brevipalpa</i>	タレメオトヒメゴカイ	○	○
14					Hesionidae	オトヒメゴカイ科	○	○
15				ギボシイソメ	<i>Scoletoma longifolia</i>	カタマガリギボシイソメ	○	○
16				シロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>	ミナミシロガネゴカイ	○	○
17				ゴカイ	<i>Ceratonereis erythraeensis</i>	コケゴカイ	○	○
18					<i>Hediste</i> sp.	カワゴカイ属	◎	○
19					<i>Leonnates persicus</i>	ベルシャゴカイ	○	○
20					<i>Neanthes succinea</i>	アシナガゴカイ	○	◎
21					<i>Nectoneanthes latipoda</i>	オウギゴカイ	○	○
22					<i>Nereis multignatha</i>	マサゴゴカイ	○	○
23					<i>Platynereis bicanaliculata</i>	ツルヒゴカイ	○	○
24					Nereidae	ゴカイ科	○	○
25				サシバゴカイ	<i>Anaitides</i> sp.		○	○
26					<i>Eteone</i> sp.		○	○
27					<i>Eumida sanguinea</i>	マダラサシバ	○	○
28				カギゴカイ	<i>Cabira pilargiformis japonica</i>	ニホンカギゴカイ	○	○
29					<i>Sigambra phuketensis</i>	クシカギゴカイ	○	○
30					<i>Sigambra</i> sp.		○	○
31				ウロコムシ	<i>Harmothoe</i> sp.		○	○
32					<i>Lepidonotus helotypus</i>	サンハチウロコムシ	○	○
33				シリス	<i>Typosyllis</i> sp.		○	○
34			定在	カザリゴカイ	<i>Asabellides</i> sp.		○	○
35				イトゴカイ	<i>Capitella capitata</i>		○	○
36					<i>Capitella</i> sp.		○	○
37					<i>Heteromastus</i> sp.		○	○
38					<i>Mediomastus</i> sp.		○	○
39					<i>Notomastus</i> sp.		○	○
40				ツバサゴカイ	<i>Spiochaetopterus</i> sp.		○	○
41				ミズヒキゴカイ	<i>Chaetozone</i> sp.		○	○
42					<i>Cirriformia tentaculata</i>	ミズヒキゴカイ	○	○
43					<i>Tharyx</i> sp.		○	○
44				タケフシゴカイ	Maldanidae	タケフシゴカイ科	○	○
45				オフエリアゴカイ	<i>Armania lanceolata</i>	ツツオオフエリア	○	○
46				チマキゴカイ	<i>Owenia fusiformis</i>	チマキゴカイ	○	○
47				ウミイサゴムシ	<i>Lagis bocki</i>	ウミイサゴムシ	○	○
48				カンムリゴカイ	<i>Sabellaria</i> sp.		○	○
49				ケヤリ	<i>Chone</i> sp.		○	○
50					<i>Euchone</i> sp.		○	○
51				カンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	カニヤドリカンザシゴカイ	○	○
52					<i>Hydroides ezoensis</i>	エゾカサネカンザシゴカイ	○	○
53					<i>Hydroides fuscicola</i>	ホソゲカンザシゴカイ	◎	○
54				スピオ	<i>Aonides oxycephala</i>	ケンサキスピオ	○	○
55					<i>Paraprionospio patiens</i> ※1)	シノブハネエラスピオ	○	◎
56					<i>Paraprionospio coora</i> ※2)	スベスベハネエラスピオ	○	○
57					<i>Polydora</i> sp.		○	○
58					<i>Prionospio japonicus</i>	ヤマトスピオ	○	○
59					<i>Prionospio pulchra</i>	イトエラスピオ	○	○
60					<i>Pseudopolydora kempfi</i>	ドロオニスピオ	◎	○
61					<i>Pseudopolydora</i> sp.		○	○
62					<i>Rhynchospio glutaea</i>	ヒゲスピオ	○	○
63					<i>Scolelepis</i> sp.		○	○
64					<i>Streblospio benedicti japonica</i>	ホソエリタテスピオ	○	○
65				フサゴカイ	<i>Lanice</i> sp.		○	○
66					<i>Nicolea</i> sp.		○	○
67					<i>Streblosoma</i> sp.		○	○
68					Terebellidae	フサゴカイ科	○	○
69		貧毛			OLIGOCHAETA	貧毛綱	○	○
70	触手動物	筈虫	筈虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.		○	○

出典: 平成 23 年度水生生物調査結果報告書 (東京湾内湾) 東京都環境局

表 1-7 (2) 底生生物調査 (出現種年間リスト)

調査年月:平成23年5月(春季)、9月(夏季)

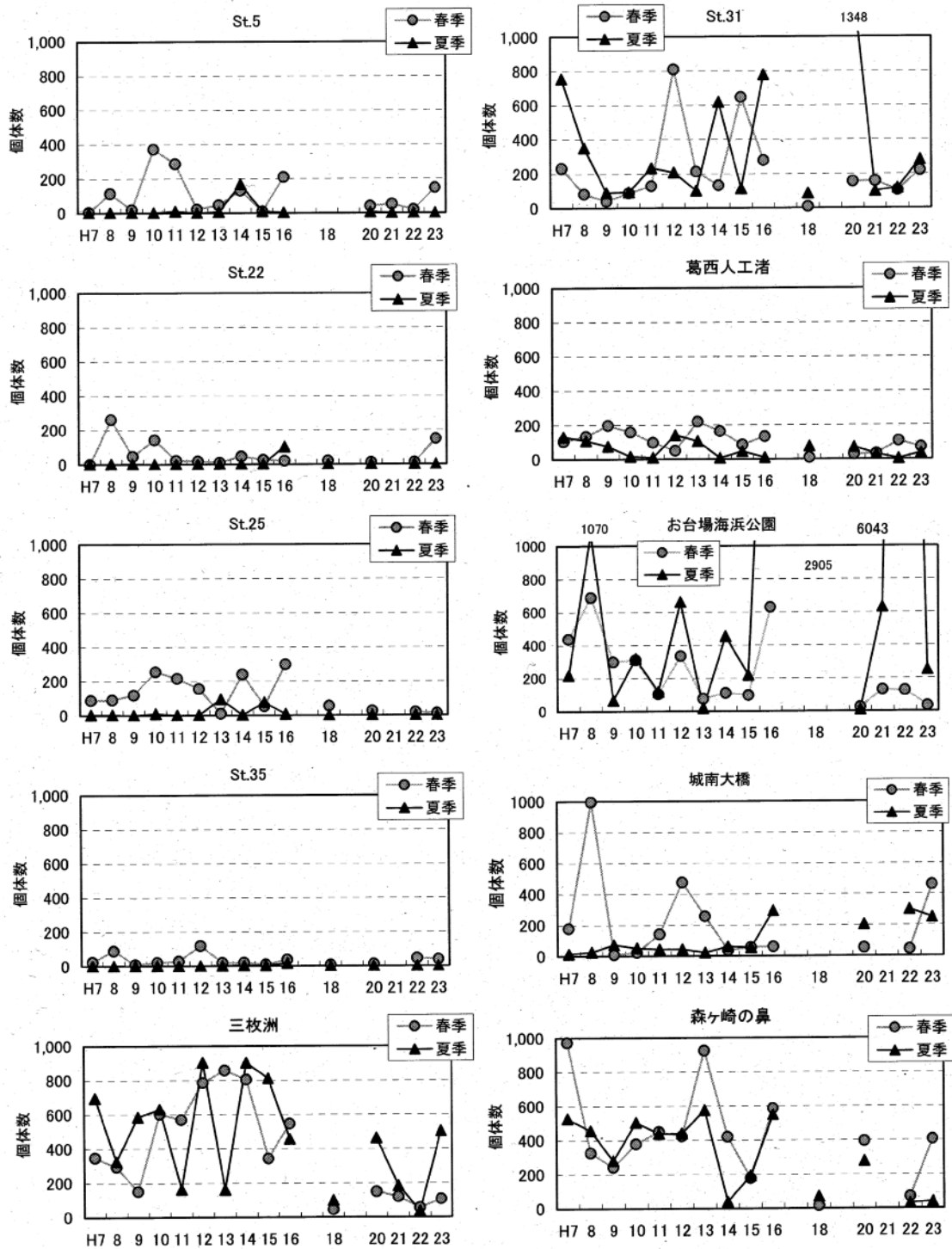
番号	門	綱	目	科	種名	和名	春季	夏季			
71	軟体動物	腹足	中腹足	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>	カワザンショウガイ	○	○			
72				カリバガサガイ	<i>Crepidula onyx</i>	シマメノウフネガイ	○	○			
73				カワグチツボ	<i>Iravadia elegantula</i>	カワグチツボ	○	○			
74				リソツボ	<i>Voorwindia</i> sp.		○	○			
75				ミズゴマツボ	<i>Stenothyra edogawaensis</i>	エドガワミズゴマツボ	○	○			
76				新腹足	オリレヨフバイ	<i>Hinia festiva</i>	アラムシロガイ	○	○		
77					タモトガイ	<i>Mitrella bicincta</i>	ムギガイ	○	○		
78				頭楯	カノコキセワタガイ	Chelidonuridae	カノコキセワタガイ科	○	○		
79					キセワタガイ	<i>Philine argentata</i>	キセワタガイ	○	○		
80						<i>Yokoyamaia ornatissima</i>	ヨコヤマキセワタガイ	○	○		
81					トウガタガイ	<i>Iolaea</i> sp.		○	○		
82						<i>Paracingulina</i> sp.		○	○		
83						<i>Turbonilla</i> sp.	イトカケギリガイ属	○	○		
84					ヘコミツラガイ	<i>Retusa</i> sp.		○	○		
85					マメウラシマガイ	<i>Ringicula doliaris</i>	マメウラシマガイ	○	○		
86			背楯		カメノコフシエラガイ	<i>Pleurobranchaea novaesealandiae</i>	ウミフクロウ	○	○		
87					真多歯	フネガイ	<i>Scapharca subcrenata</i>	サルボウガイ	○	○	
88						翼形	イガイ	<i>Limnoperna fortunei kikuchii</i>	コウロエンカワヒバリガイ	●	●
89							<i>Musculus senhousia</i>	ホトギスガイ	○	◎	
90							<i>Mytilus edulis</i>	ムラサキイガイ	○	○	
91						イタボガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	マガキ	○	○	
92				異歯	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	ヤマトシジミ	○	○		
93					マゴコロガイ	<i>Mytilopsis sallei</i>	イガイダマシ	○	○		
94					ケシトリガイ	<i>Alvenius ojanus</i>	ケシトリガイ	○	○		
95					ガンツキ	<i>Arthritica</i> sp.	ガンツキ属		○		
96					バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>	バカガイ		○		
97						<i>Mactra veneriformis</i>	シオフキガイ	○	○		
98						<i>Raeta rostralis</i>	チヨノハナガイ	○	○		
99					イワホリガイ	<i>Petricola</i> sp. cf. <i>lithophaga</i>	ウスカラシオツガイ	○	○		
100					アサジガイ	<i>Theora lata</i>	シズクガイ	○	○		
101					ニッコウガイ	<i>Macoma incongrua</i>	ヒメシラトリガイ	○	○		
102						<i>Macoma tokvoensis</i>	ゴイサギガイ	○	○		
103					マルスダレガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	ホンビノスガイ	○	○		
104						<i>Phacosoma japonicum</i>	カガミガイ	○	○		
105						<i>Tapes philippinarum</i>	アサリ	○	◎		
106				無面	キヌマトイガイ	<i>Hiatella flaccida</i>	キヌマトイガイ	○	○		
107					エソオオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>	オオノガイ	○	○		
108			節足動物	甲殻	異韌帯	ソトオリガイ	<i>Laternula limicola</i>	ソトオリガイ	○	○	
109						完胸	フジツボ	<i>Balanus amphitrite</i>	タテジマフジツボ	○	○
110							<i>Balanus eburneus</i>	アメリカフジツボ	○	○	
111							<i>Balanus improvisus</i>	ヨーロッパフジツボ	○	○	
112					コノハエビ	コノハエビ	<i>Nebalia</i> sp.		○	○	
113					クマ	ディアステイリス	<i>Diastylis tricineta</i>	ミツオビクマ	○	○	
114					タナイス	タナイス	<i>Snelobus stanfordi</i>	キスイタナイス	○	○	
115					等脚	スナウミナナフシ	<i>Cyathura</i> sp.			○	○
116						コツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	イソコツブムシ属		○	○
117					端脚	スガメソコエビ	<i>Ampelisca brevicornis</i>	クビナガスガメ	○	○	
118	ヒゲナガヨコエビ	<i>Ampithoe</i> sp.					○	○			
119	アオラ	<i>Aoroidea</i> sp.				ユンボソコエビ属		○	○		
120	ドロクダムシ	<i>Corophium</i> sp.				ドロクダムシ属		◎	○		
121		<i>Grandidierella japonica</i>				ニホンドロソコエビ		○	○		
122	ヨコエビ	<i>Melita</i> sp.				メリタヨコエビ属		○	○		
123	クチバシソコエビ	<i>Synchelidium</i> sp.						○	○		
124	ワレカラ	<i>Caprella</i> sp.						○	○		
125	十脚	テッポウエビ				<i>Alpheus brevicristatus</i>	テッポウエビ	○	○		
126		エビジャコ				<i>Crangon uritai</i>	ウリタエビジャコ	○	○		
127		ロウソクエビ			<i>Processa</i> sp.	ロウソクエビ属		○	○		
128		スナモグリ			<i>Callinassa japonica</i>	ニホンスナモグリ	○	○			
129		ホンヤドカリ			<i>Pagurus dubius</i>	ユビナガホンヤドカリ	○	○			
130		イワガニ			<i>Hemigrapsus longitarsis</i>	スネナガイソガニ	○	○			
131					<i>Hemigrapsus takanoi</i>	タカノケフサイソガニ		○	○		
132		クモガニ			<i>Pyromaia tuberculata</i>	イッカククモガニ	○	○			
133	カクレガニ	<i>Pinnixa rathbuni</i>			ラスバンマメガニ	○	○				
134	ワタリガニ	<i>Carcinus mediterraneus</i>			チチュウカイミドリガニ	○	○				
135	昆虫	双翅	ユスリカ	Larva of Chironomidae	ユスリカ科 幼虫	○	○				
136	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	<i>Ophiophragmus japonicus</i>	カキクモヒトデ	○	○				
137			チビクモヒトデ	<i>Ophiactis</i> sp.		○	○				
138	原索動物	尾索	腸性	<i>Ophiura kinbergi</i>	クシノハクモヒトデ	○	○				
139			アスキシア	<i>Ascidia zara</i>	ザラボヤ	○	○				
140			キオナ	<i>Ciona</i> sp.		○	○				
141		壁性	スチエラ	<i>Styela plicata</i>	シロボヤ	○	○				
合 計							131	67			

※1) *Paraprionospio* sp. (A)

※2) *Paraprionospio* sp. (C1)

注: ○は出現種、●は海域別合計個体数の第1位、◎は第2～5位を示す。

出典:平成23年度水生生物調査結果報告書(東京湾内湾) 東京都環境局



出典：平成 23 年度水生生物調査結果報告書（東京湾内湾） 東京都環境局

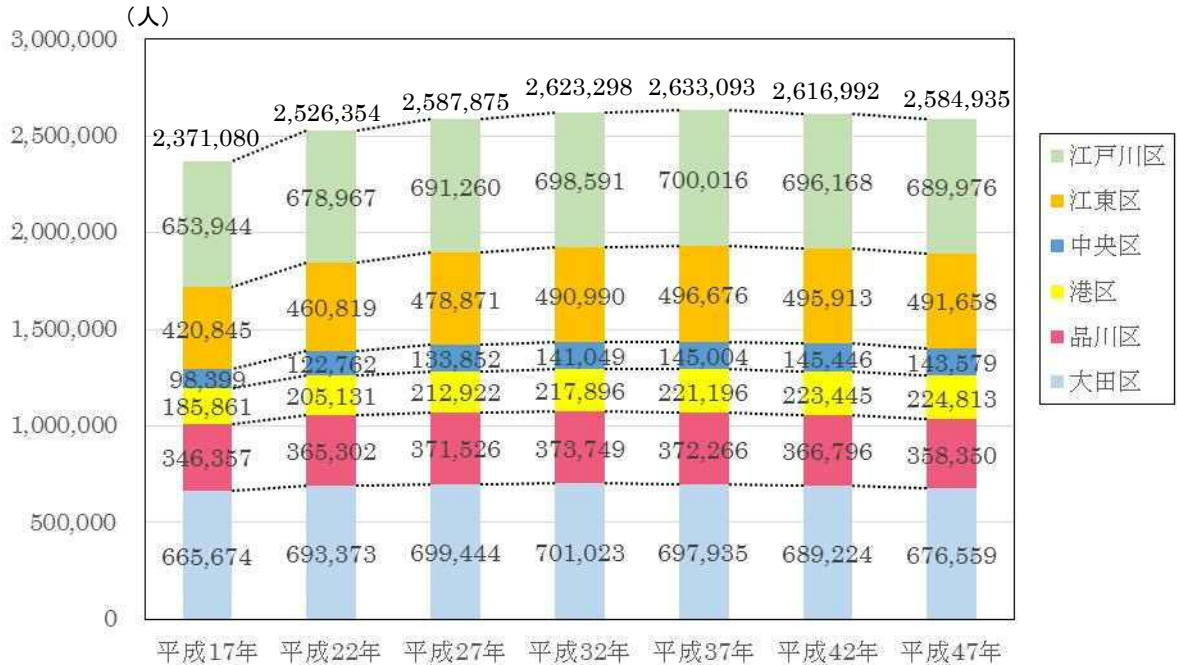
図 1-8 底生生物の地点別出現状況の経年変化（個体数）

■社会的特性

◆東京都沿岸6区全体の将来人口の推計結果と年齢構成の推移（本編P1-34）

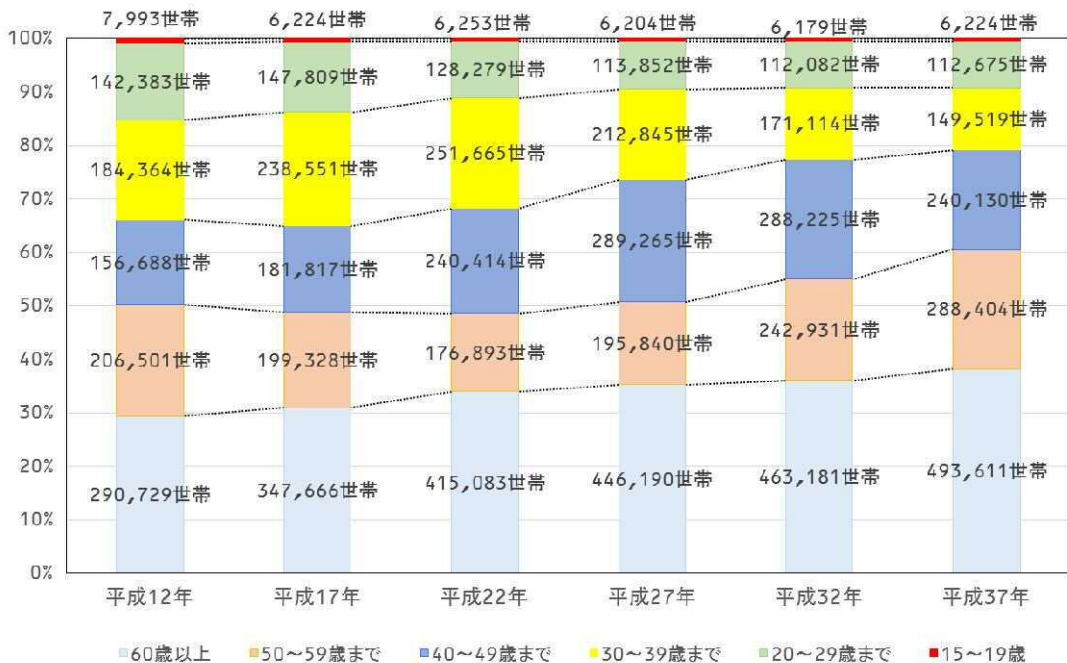
東京都沿岸6区全体の将来人口は、平成27年以降微増で推移し、平成37年をピークに減少すると予想されている。また、50歳以上の世帯数は、平成27年以降急速に増加していくと予想されている。

※推計結果については、平成22年(2010年)以前の数値は国勢調査結果の実績値である。



出典：東京都の統計 平成24年3月 東京都より作成

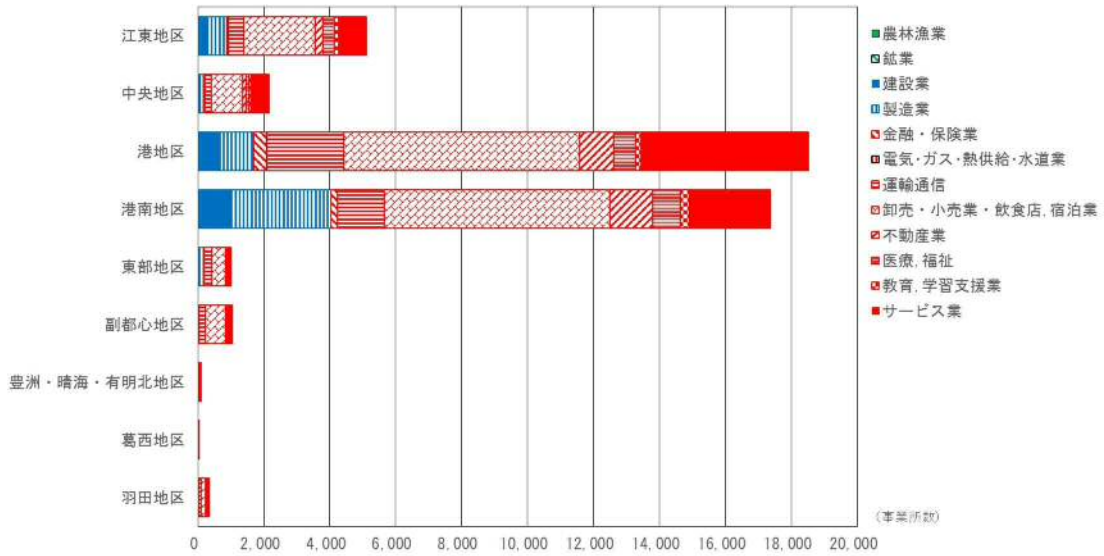
図1-9 東京都沿岸6区の人口推計結果



出典：東京都の統計 平成24年3月 東京都より作成

図1-10 東京都沿岸6区の年齢構成の推移（一般世帯数）

◆産業および土地利用（本編P 1-36）



出典：事業所・企業統計調査 東京都 結果報告（平成 18 年事業所統計）より作成

図 1-1 1 東京都沿岸の産業の分布

表 1-8 東京都沿岸の産業別事業所数

地区名	第一産業 事業所数		第二産業 事業所数		第三産業 事業所数							
	農林漁業	鉱業	建設業	製造業	金融・ 保険業	電気・ガス ・熱供給・ 水道業	運輸 通信	卸売・ 小売業・ 飲食店・ 宿泊業	不動産業	医療・福祉	教育・学習 支援業	サービス 業
江東地区	3	0	316	549	47	7	481	2149	234	360	134	834
中央地区	0	0	74	96	33	2	200	947	101	109	53	541
港地区	6	14	668	992	388	24	2329	7156	1031	651	181	5072
港南地区	1	1	1030	3010	184	15	1416	6837	1304	821	277	2467
東部地区	0	0	38	143	3	1	245	397	21	22	16	128
副都心地区	0	0	11	19	4	4	193	596	14	21	11	174
豊洲・晴海・有明北地区	0	0	4	7	0	2	22	34	3	3	2	22
葛西地区	0	0	0	1	0	0	3	13	1	0	2	8
羽田地区	0	0	15	1	5	1	70	135	3	10	3	104
合計	10	15	2156	4818	664	56	4959	18264	2712	1997	679	9350

出典：事業所・企業統計調査 東京都 結果報告（平成 18 年事業所統計）より作成

◆レクリエーション施設（本編P1-39）

東京都沿岸の主なレクリエーション施設には、お台場海浜公園や葛西海浜公園などの海上公園があり、スポーツ、釣り、水辺の野鳥観察や体験学習の場として利用されている。

海上公園には、海浜公園、ふ頭公園、緑道公園があり（図1-12、表1-9参照）、自然環境を回復し、都民の多様なレクリエーションニーズに応える場として、東京都の海上公園計画に基づき、東京都港湾局が設置・所管している。

海上公園のうち、外郭防潮堤の外側には大規模な公園が、内側には日常に利用しやすい小規模な公園が存在している。

また、都民の海洋性スポーツ・レクリエーションの振興と海洋思想の普及をめざした夢の島マリーナや東京湾マリーナは、都心からもほど近く、マリンスポーツや自然回帰の新拠点として注目を集めている。

海上公園や水際の遊歩道などの海上からの良好な景観は、水上バス（図1-13参照）や屋形船、レストラン機能の充実したクルーザーによる東京湾クルージングなどの観光資源の一つとなっている。旅客ターミナルやレインボーブリッジなどのレクリエーション以外の施設においても海辺の景観を楽しむ配慮がなされている。



晴海客船ターミナル

船旅を楽しむ人々だけでなく、多くの人々が港の景色を楽しむ場として利用されている。また、多目的ホールや展望台なども設置されている。

竹芝客船ターミナル

伊豆・小笠原諸島への玄関口として、また、レストラン船などの発着場としても利用されている。竹芝ふ頭再開発事業によりオフィスビル、ホテル、レストランなどが海上公園と一体的に整備され、多くの人々が海の景観を楽しみながらの散策や食事などができる水に親しむ空間となっている。



レインボーブリッジ

東京港の新しいシンボルとして平成5年8月に臨海副都心と都心方向を結ぶ橋としてオープンした。橋は二重構造の吊り橋で上には首都高速11号台場線、下には一般車道、臨海新交通「ゆりかもめ」の他に東京都沿岸を眺望できる遊歩道が設置されている。

東京ゲートブリッジ

大田区城南島と江東区若洲を結ぶ東京港臨海道路のうち東京東航路を横断する橋として平成24年2月に開通した。橋は特徴的なトラス構造をしており、片側2車線の一般道と都心側には歩道が設置されている。歩道からは都心や富士山まで見渡せる壮大な景色が楽しめる。



出典：東京都 港湾局HP



- 海浜公園 Seaside Park
- ふ頭公園 Port Park
- 緑道公園 Greenway

主な海上公園 Major Marine Parks

公園名 Name of Park	交通 Access	特色 Characteristics
1 お台場海浜公園 Odessa Marine Park	新交通ゆりかもめ お台場海浜公園駅、有明駅下車 徒歩3分 丸の内線(目黒駅)からお台場海浜公園、お台場海浜公園下車	噴水び、ボードセーリング・帆板、砂浜遊び、ランニング
2 大井ふ頭中央海浜公園 O.O. Central Seaside Park	モノレール 大井親島橋前下車 徒歩8分 京浜バス(大森駅東口)→八潮(バウタラン) 中央公園下車徒歩5分	各種スポーツ(有料)、ドッグラン・噴水び、釣り・自然観察・散策
3 東京港野鳥公園 Tokyo Port Bird Reserve	モノレール 深津センター下車 徒歩13分 京浜バス(大森駅東口)→麻呂島(野鳥公園)下車	《有料公園》野鳥・自然観察・散策・景観
4 島西海浜公園 Kasei Marine Park	JR東武西武池袋線下車 徒歩7分 京浜バス(島内駅)→島西海浜公園(環状線)	釣堀遊び・釣り・スポーツ・バーベキュー・野鳥・自然観察
5 若洲海浜公園 Wakanose Seaside Park	京浜バス(島内駅)→若洲(若洲キャンプ場)下車 京浜バス(島内駅)→若洲(若洲キャンプ場)下車	ゴルフ場・釣り施設・サイクリング
6 城南島海浜公園 Jonokijima Seaside Park	京浜バス(大森駅東口)→城南島(環状線) 城南島西丁下車 徒歩3分	キャンプ場・テニスコート(有料)・噴水・散策・砂浜遊び・スノーボード・ドッグラン
7 辰巳の森海浜公園 Tatsunuma Seaside Park	有明線辰巳駅下車 徒歩1分	バタゴルフ・フリスビー(有料)・散策・芝生公園・ドッグラン
8 晴南ふ頭公園 Eitama Port Park	京浜バス(島内駅)→晴南ふ頭(環状線) 晴南ふ頭下車	スポーツ・バーベキュー・散策・景観
9 みなとが丘ふ頭公園 Minatoyaka Port Park	京浜バス(島内駅)→大井市(大井埠頭) 東京線大井埠頭下車 徒歩3分	バーベキュー・芝生広場・散策・景観
10 栗新島つばき公園 Kashiijima Tsubaki Park	京浜バス(大森駅東口)→大森海岸(京浜島橋) 京浜島橋上公園下車	バーベキュー・芝生広場・散策・景観
11 青洲南ふ頭公園 Aomi Minami Port Park	新交通ゆりかもめ テレコムセンター駅下車徒歩3分	釣り・散策・景観
12 辰巳の森緑道公園 Tatsunuma Greenway	有明線辰巳駅下車 徒歩1分	運動広場・芝生広場
13 シンボルプロムナード公園 Symbol Promenade Park	新交通ゆりかもめ 有明線(テレコムセンター)駅、有明線辰巳駅、辰巳駅下車	散策・景観・ランニング

海浜公園：水域における自然環境の保全及び回復を図り、水に親しむ場所として都民に提供される公園

ふ頭公園：ふ頭内の環境の整備を図り、みなとの景観に親しむ場所として都民に提供される公園

緑道公園：臨海地域における自然環境の回復を図るとともに、緑に親しむ場所として都民に提供され、あわせて海上公園との一体的な利用を促進させる公園

これらの海上公園は東京臨海副都心グループ、東京港埠頭株式会社、東京港野鳥公園グループなどが委託し管理している。

出典：東京都港湾局HP 「PORT OF TOKYO 2013」

図 1-12 東京都沿岸の主な海上公園

表 1-9 主な海上公園の特色

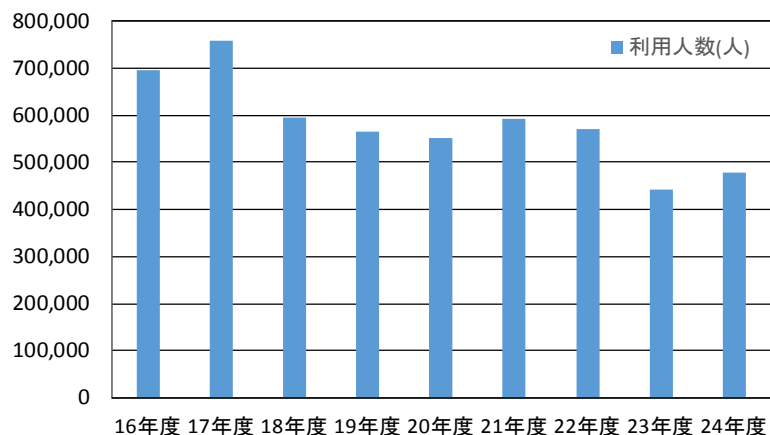
公園名	交通	特色	駐車場	海岸に近づける	水を見られる	水に触れる	海岸で遊べる
① お台場海浜公園	新交通ゆりかもめ： 「お台場海浜公園駅」、「台場駅」下車 徒歩3分 海上バス：（日の出桟橋⇄お台場海浜公園） 「お台場海浜公園」下船	磯・砂浜遊び ボードセーリング 景観	○	○	○	○	○
② 大井ふ頭中央海浜公園	モノレール：「大井競馬場前」下車 徒歩8分 京急バス：（大森駅東口⇄八潮パークタウン） 「中央公園」下車徒歩5分	各種スポーツ（有料） 磯遊び、釣り、野鳥・自然観察、 ドックラン、散策	○	○	○	○	○
③ 東京港野鳥公園	モノレール：「流通センター」下車徒歩15分 バス：JRバス（大森駅東口）または京急バス（大森 駅東口）から森24, 25, 32, 36, 41, 43, 45, 46系統 「東京港野鳥公園」または「野鳥公園下車」	〈有料公園〉 景観、散策、野鳥・自然観察	○		○		
④ 葛西海浜公園	JR京葉線：「葛西臨海公園駅」下車 徒歩7分 都バス：東西線「葛西駅」から臨海28甲系統、「西 葛西駅」から西葛20乙系統 「葛西臨海公園駅」下車徒歩7分	スポーツカイト、砂浜遊び 景観、野鳥・自然観察、釣り	○	○	○	○	○
⑤ 若洲海浜公園	都バス：JR京葉線、有楽町線、りんかい線「新木場 駅」から木11系統 若洲ゴルフリンクス、ヨット訓練場へは「若洲ゴル フリンクス」下車 海釣り施設へは「若洲キャンプ場前」下車	ゴルフ場、キャンプ場、 ヨット訓練場（有料） 磯遊び、釣り施設 サイクリング・多目的広場	○	○	○	○	○
⑥ 城南島海浜公園	京急バス：「JR大森駅」東口、京急「大森海岸駅」 「平和島」、東京モノレール「流通センタ」から 森32系統（城南島循環）「城南島四丁目」下車 徒 歩3分	砂浜遊び、景観、キャンプ場・ オートキャンプ場（有料） 釣り、ドックラン	○	○	○	○	○
⑦ 辰巳の森海浜公園	有楽町線：「辰巳駅」下車 徒歩7分 JR京葉線：「新木場駅」下車 徒歩15分	国際水泳場（東京都スポーツ振 興局所管）、パターゴルフ、ラ グビーなど（有料）、 ドックラン、多目的広場、遊具 広場	○		○		
⑧ 晴海ふ頭公園	都バス：大江戸線「勝どき駅」から都03、都05系 統 「晴海ふ頭」下車すぐ	景観、釣り		○	○		
⑨ みなとが丘ふ頭公園	都バス：JR「品川駅」東口から品98甲・乙系統 「東京税関大井出張所」下車 徒歩3分	野鳥・自然観察、景観、散策	○				
⑩ 京浜島つばさ公園	京急バス：JR「大森駅」東口、京急「大森海岸駅」 「平和島駅」から森24, 36系統 「京浜島海上公園」下車すぐ	釣り、景観、散策、芝生広場	○	○	○		
⑪ 青海南ふ頭公園	新交通ゆりかもめ：「テレコムセンター駅」 下車 徒歩2分	釣り、景観		○	○		
⑫ 辰巳の森緑道公園	有楽町線：「辰巳駅」下車徒歩1分	緑の並木道、芝生広場					
⑬ シンボルブロード公園	新交通ゆりかもめ：「台場駅」「テレコムセンター 駅」「有明駅」の各駅下車 りんかい線：「東京テレポート」「国際展示場駅」 下車 海上バス：日の出桟橋（JR浜松町駅徒歩8分）から 「パレットタウン」「東京ビッグサイト」下船	景観、散策	○				

出典：東京都港湾局 「海上公園ガイド ～潮風のブロード～」（2013年3月）より作成

表 1-10 (1) 利用状況

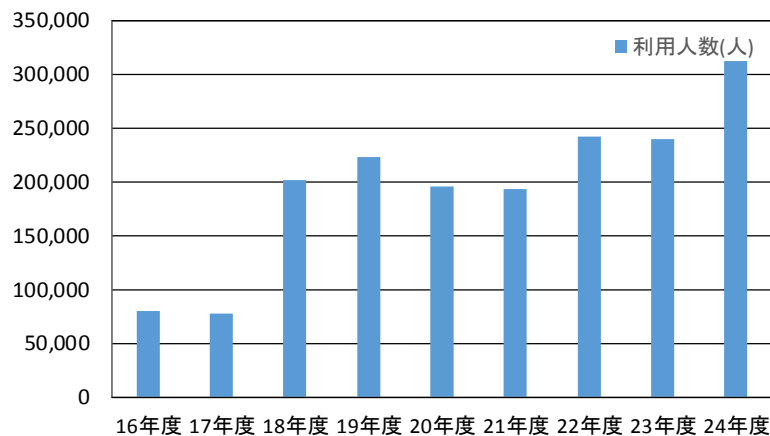
a 葛西海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	695,400
17年度	757,900
18年度	595,251
19年度	566,095
20年度	550,942
21年度	592,737
22年度	571,089
23年度	441,473
24年度	477,504



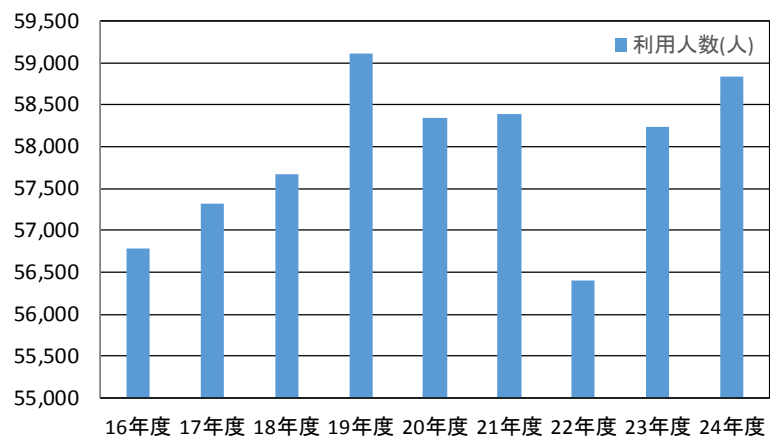
b 若洲海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	79,918
17年度	78,158
18年度	202,125
19年度	223,002
20年度	195,671
21年度	193,138
22年度	242,472
23年度	239,461
24年度	312,154



c 若洲海浜公園 ゴルフリンクス

年度	利用人数(人)
16年度	56,789
17年度	57,319
18年度	57,674
19年度	59,116
20年度	58,350
21年度	58,389
22年度	56,403
23年度	58,246
24年度	58,843

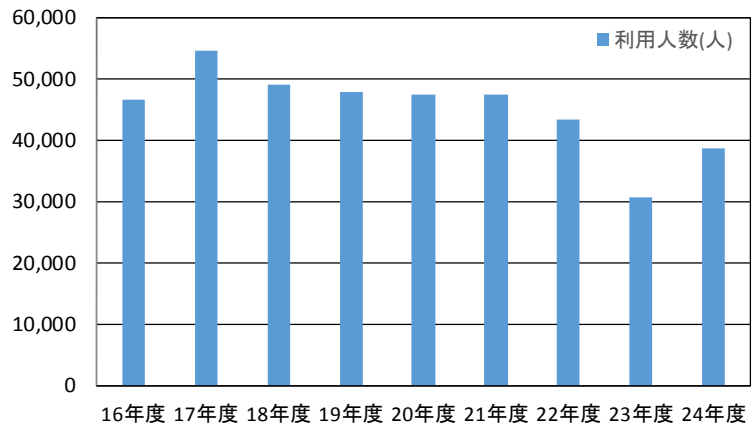


出典：東京都港湾局資料より作成

表 1-10 (2) 利用状況

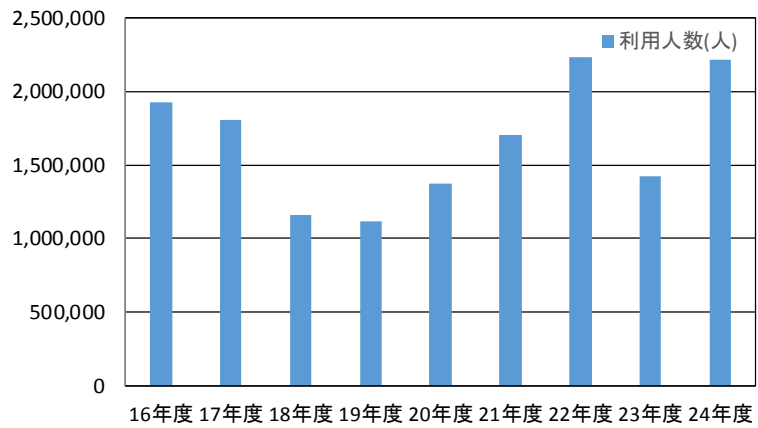
d 東京港野鳥公園

年度	利用人数(人)
16年度	46,720
17年度	54,716
18年度	49,028
19年度	47,805
20年度	47,554
21年度	47,429
22年度	43,473
23年度	30,640
24年度	38,645



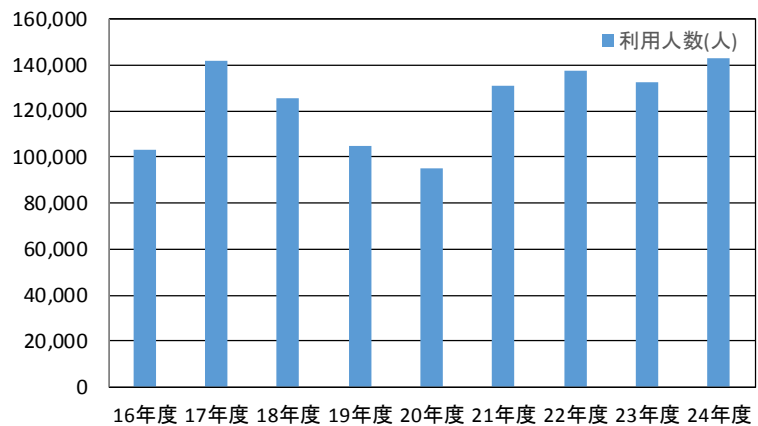
e お台場海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	1,929,760
17年度	1,808,796
18年度	1,162,896
19年度	1,123,046
20年度	1,373,863
21年度	1,702,580
22年度	2,230,673
23年度	1,421,255
24年度	2,219,115



f 辰巳の森海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	103,418
17年度	141,649
18年度	125,535
19年度	104,768
20年度	95,108
21年度	130,928
22年度	137,262
23年度	132,660
24年度	142,701

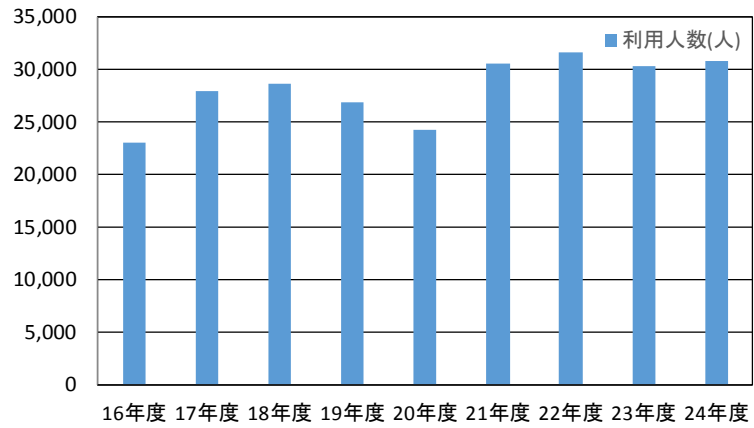


出典：東京都港湾局資料より作成

表 1-10 (3) 利用状況

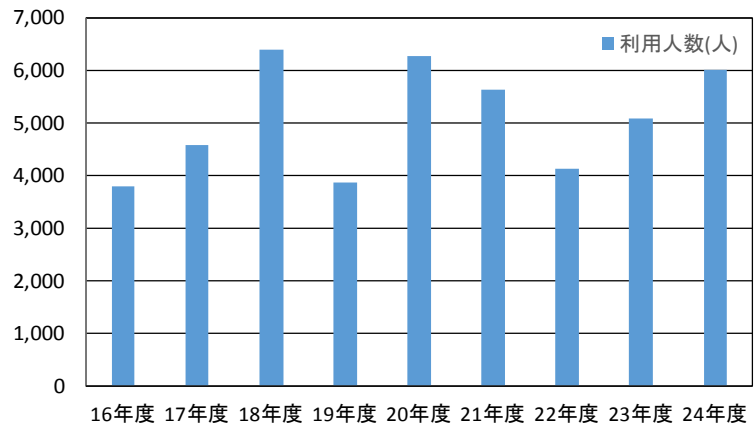
g 辰巳の森海浜公園 ニュースポーツ

年度	利用人数(人)
16年度	23,083
17年度	27,889
18年度	28,608
19年度	26,832
20年度	24,218
21年度	30,531
22年度	31,615
23年度	30,355
24年度	30,843



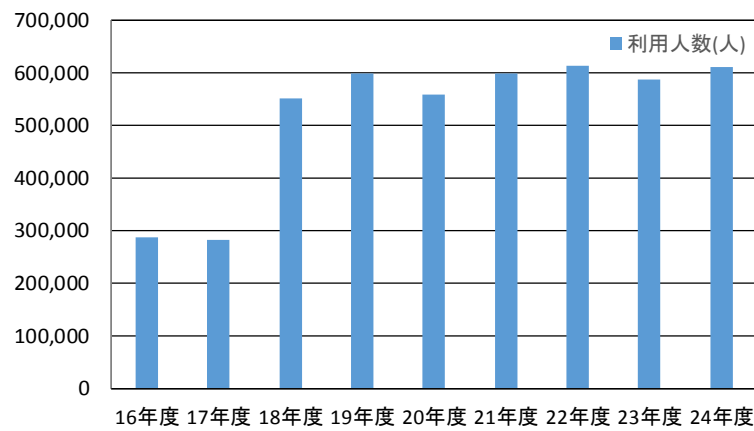
h 辰巳の森海浜公園 ラグビー練習場

年度	利用人数(人)
16年度	3,791
17年度	4,578
18年度	6,398
19年度	3,864
20年度	6,275
21年度	5,628
22年度	4,142
23年度	5,092
24年度	6,017



i 大井ふ頭中央海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	288,284
17年度	282,329
18年度	552,280
19年度	598,144
20年度	559,774
21年度	600,107
22年度	613,320
23年度	586,994
24年度	611,582

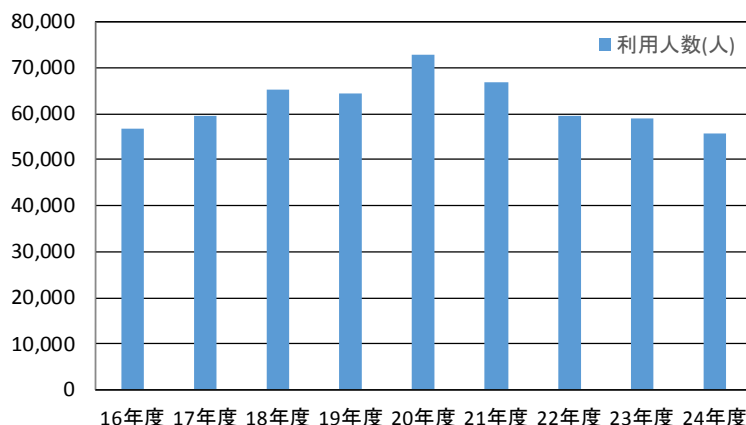


出典：東京都港湾局資料より作成

表 1-10 (4) 利用状況

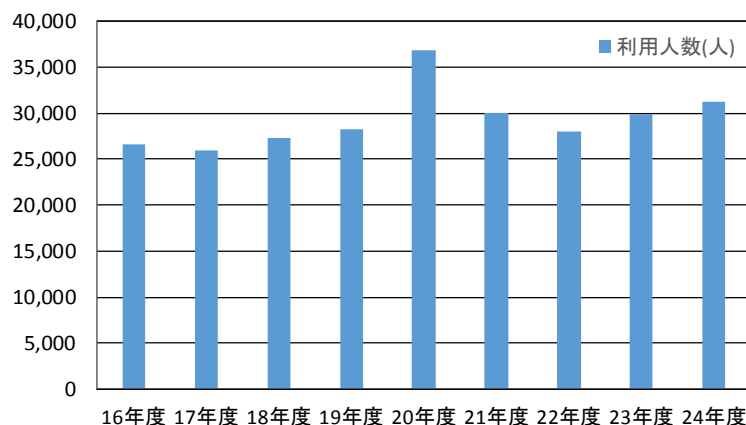
j 大井ふ頭中央海浜公園 テニスコート

年度	利用人数(人)
16年度	56,739
17年度	59,489
18年度	65,150
19年度	64,370
20年度	72,789
21年度	66,733
22年度	59,517
23年度	59,015
24年度	55,588



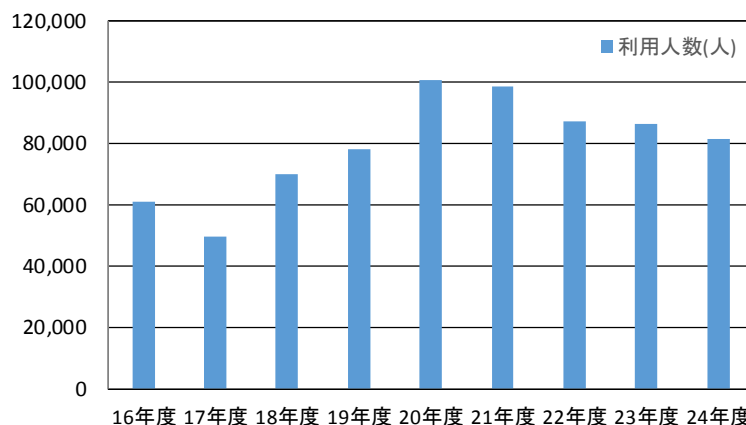
k 大井ふ頭中央海浜公園 第一球技場

年度	利用人数(人)
16年度	26,568
17年度	25,907
18年度	27,264
19年度	28,326
20年度	36,893
21年度	30,007
22年度	28,009
23年度	29,854
24年度	31,307



l 大井ふ頭中央海浜公園 第二球技場

年度	利用人数(人)
16年度	61,253
17年度	49,744
18年度	69,973
19年度	78,428
20年度	100,646
21年度	98,844
22年度	87,200
23年度	86,564
24年度	81,590

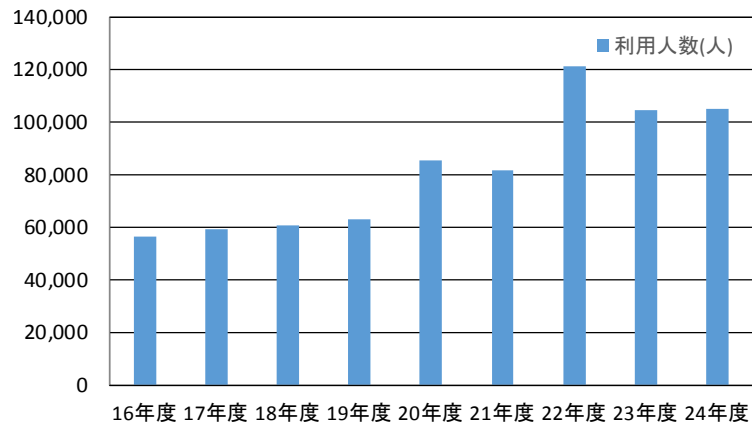


出典：東京都港湾局資料より作成

表 1-10 (5) 利用状況

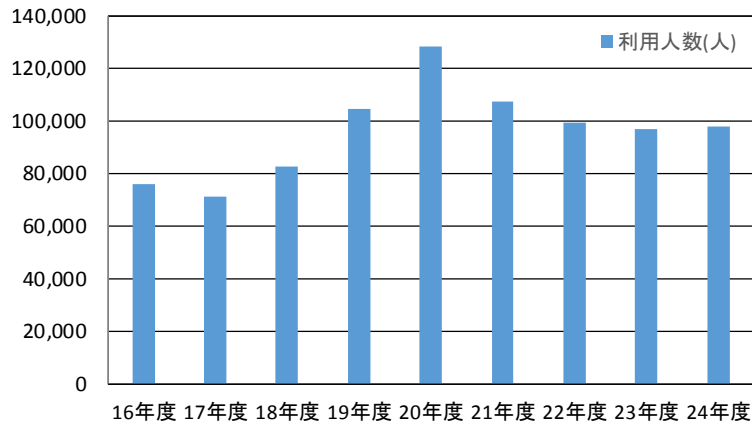
m 大井ふ頭中央海浜公園 陸上競技場

年度	利用人数(人)
16年度	56,449
17年度	59,628
18年度	60,853
19年度	63,107
20年度	85,402
21年度	81,600
22年度	121,526
23年度	104,486
24年度	105,200



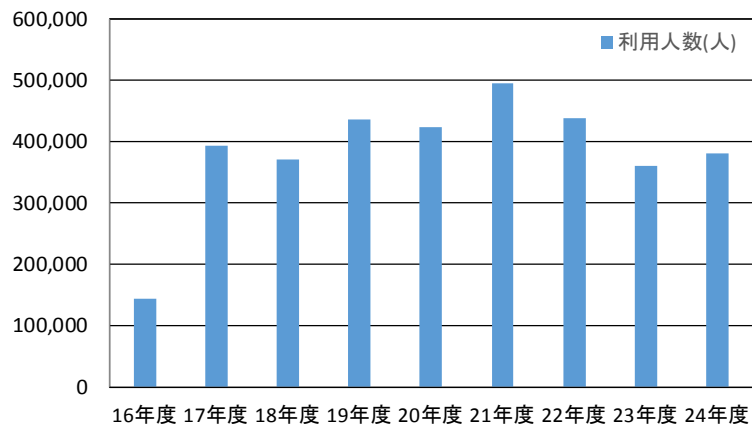
n 大井ふ頭中央海浜公園 野球場

年度	利用人数(人)
16年度	76,117
17年度	71,193
18年度	82,673
19年度	104,481
20年度	128,352
21年度	107,323
22年度	99,409
23年度	97,209
24年度	98,066



o 城南島海浜公園

年度	利用人数(人)
16年度	144,054
17年度	393,708
18年度	371,977
19年度	436,067
20年度	424,166
21年度	495,291
22年度	438,959
23年度	361,437
24年度	381,975

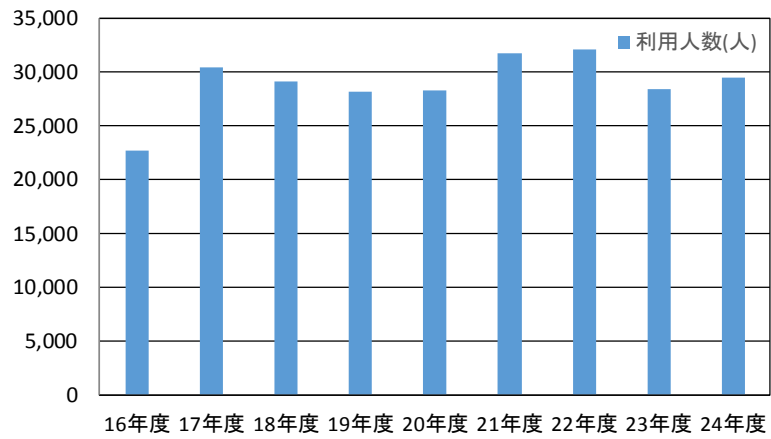


出典：東京都港湾局資料より作成

表 1-10 (6) 利用状況

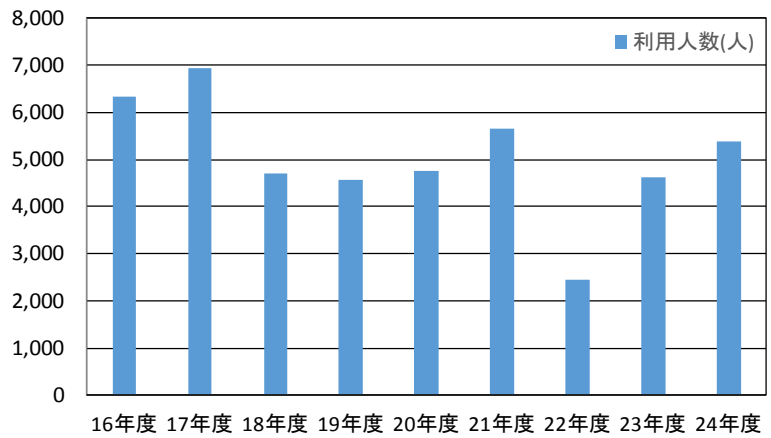
ρ 城南島海浜公園 キャンプ場

年度	利用人数(人)
16年度	22,775
17年度	30,436
18年度	29,187
19年度	28,153
20年度	28,330
21年度	31,757
22年度	32,142
23年度	28,423
24年度	29,505

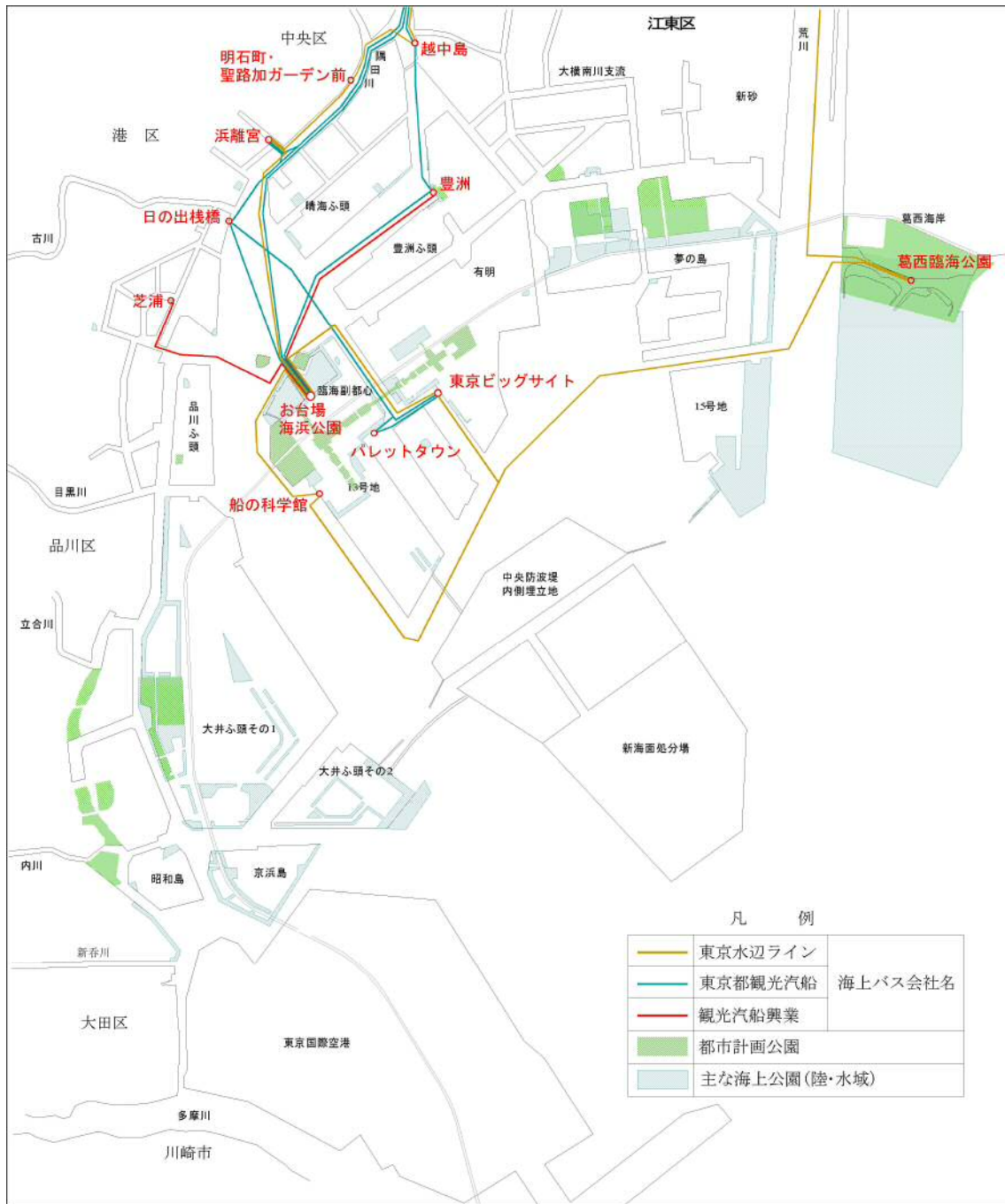


q 城南島海浜公園 オートキャンプ場

年度	利用人数(人)
16年度	6,336
17年度	6,942
18年度	4,715
19年度	4,578
20年度	4,751
21年度	5,647
22年度	2,433
23年度	4,617
24年度	5,388



出典：東京都港湾局資料より作成



注) この図は乗船場との接続を示したものであり、実際の航路とは異なる。

出典：水上バス会社HPより作成

図1-13 海上バス（3社）の運行ルート

◆海岸におけるイベント（本編P 1-40）

<運河ルネサンス>

魅力ある水辺都市の実現に向け、地域主体の取組みにより運河を観光資源として有効活用する「運河ルネサンス」を都は推進してきた。

これまで5つの推進地区が指定され、水域占有の規制緩和により民間主体による観光栈橋が整備され、イベント等の地域の取組み相まって新たな水辺の魅力と賑わいが創出されてきている。都では引き続き、「運河ルネサンス」の取組みを推進するとともに、新たな運河の活用策について検討を行い、運河の魅力や賑わいを臨海部全体へと発展させていく。

「運河ルネサンス」におけるこれまでの取組みの一例

運河クルーズ



キャンドルアート



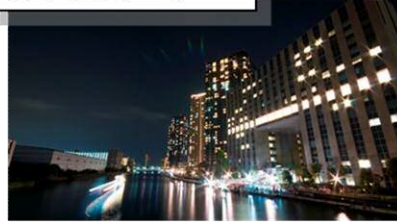
船カフェ



カナルカフェ



夜の水彩まつり



しながわ花街道



観光栈橋



水上レストラン



ハゼ釣り大会



水門のデザイン



カヌー・ボート体験



稚魚の放流



出典：東京都港湾局資料

「運河ルネサンス」推進地区



出典：東京都港湾局資料

図 1-14 「運河ルネサンス」推進地区

表 1-1 1 海上公園でのイベント (H25.1月～H25.12月)

公 園 名	主なイベント
お台場海浜公園	<ul style="list-style-type: none"> ・お台場レインボー花火 2013 ・第 10 回 海の火まつり in お台場 2013 ・シクロクロス東京 2013 ・第 5 回お台場駅伝競走
シンボルプロムナード公園	<ul style="list-style-type: none"> ・センタープロムナード花壇コンテスト ・モータースポーツジャパン 2013 フェスティバル イン お台場 ・お台場オクトーバーフェスト 2013 ・Tokyo Familia Generate & Rebirth 2013 ・臨海副都「心花と緑のフラワーフェスタ ・花と緑のフラワーフェスタ～臨海副都心チューリップフェスティバル～
若洲海浜公園	<ul style="list-style-type: none"> ・SEA FRONT MUSEUM in AUTUMN 2013 ・第 8 回 シニア釣り教室 ・アウトドアフィッシングスクール in 若洲 ・親子釣り教室 ・SEA-FRONT MUSEUM in SUMMER 2013 ・第 4 回緑と潮風のガイドツアー
潮風公園	<ul style="list-style-type: none"> ・正月飾りミニ門松作り教室 ・凧作り凧揚げ体験教室 ・RunGirl★Night Vol.4 (ランガール ナイト Vol.4) ・潮風・お台場ランニング教室 ・第 2 回犬と楽しむ大運動会 ・第 5 回お台場駅伝競争
辰巳の森海浜公園	<ul style="list-style-type: none"> ・辰巳の森ニュースポーツ体験とBBQ ・辰巳健康スポーツフェスティバル ・第 4 回緑と潮風のガイドツアー
東京港野鳥公園	<ul style="list-style-type: none"> ・竹細工教室 ・きままに自然観察 ・巣箱作りと巣箱掛け ・第 2 回里地里山フェスティバル ・しぜんであそぼう ・どんぐり拾いと工作 ・その他
大井ふ頭中央海浜公園 なぎさの森	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぎさの森のネイチャークラブ」会員により、野鳥観察会やアウトドアクッキング教室等のイベントが定期的開催されている。
晴海ふ頭公園	<ul style="list-style-type: none"> ・凧作りとスポーツカイト体験教室
葛西海浜公園	<ul style="list-style-type: none"> ・水鳥の観察会、浜辺の自然観察会、野鳥観察会、浜辺の自然観察会 ・Tokyo Bay Flight Party 2013 (スポーツカイト全国大会) ・スポーツカイト体験会と凧つくり教室 ・里海まつり ・ガイドツアー ・スライドショー ・富士鷹なすびさんの野鳥原画展 ・西なぎさボランティア清掃
新木場緑道公園 夢の島緑道公園	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回緑と潮風のガイドツアー

※開催回数は複数の公園にまたがって開催された重複開催を含む。

出典：東京都公園協会HP、東京港埠頭株式会社HP

◆学習施設など（本編P1-41）

表 1-1 2 東京港施設見学案内

施設名	内容	見学方法（問合せ先）	
中防見学ツアー ・清掃工場と中防 見学会	東京都では、ごみの排出を制御していき、資源を有効に使うことの大切さを理解してもらうため、埋め立て処分場関連施設を一般向けに公開しています。	●対象	15歳以上で都内在住、または在勤・在学の方（学校の社会科見学およびマスコミ取材は除く）
		●見学時間	6時間
		●受付方法	電話申込み
		●連絡先	（公財）東京都環境公社・見学案内係（3570-2230）
築地魚市場	東京都では、卸売市場の役割や機能の普及啓発を図るため、市場において見学者の受け入れを行っています。	●対象	小学生・中学生・高校生の団体（小学生は午後のみ）
		●見学時間	0.4時間
		●受付方法	電話予約後、FAXで申込書を送信
		●連絡先	築地市場管理課庶務係 TEL(3547)8013、FAX(3542)1376
東京港野鳥公園	野鳥を保護しながらみんなで鳥の生活を観察することができます。	●対象	制限なし
		●見学時間	1時間程度
		●受付方法	イベントにより ・電話受付・当日受付 ・往復はがき受付
		●料金	一般¥300、中学生¥150 小学生以下無料
「第五福竜丸」 展示館	1954年ビキニかんしょうでおこなわれたアメリカの原爆く実験の際、被害を受けた日本漁船「第五福竜丸」が展示一般公開されています。	●対象	児童生徒、市民の団体見学
		●見学時間	0.3～0.4時間
		●受付方法	電話による問い合わせ
		●連絡先	東京都立第五福竜丸展示館 (3521-8494)
東京港社会科 見学船	海上バスに乗って港の施設や役割を紹介する。	●対象	都内の小学校4年生～中学校3年生
		●料金	無料
		●所要時間	1時間程度
		●連絡先	一般社団法人 東京都港湾振興会 (6380)7450
東京港の 行政視察	海上から東京港の物流拠点等の見学。	●対象	15歳以上（中学生は除く）の団体または個人
		●料金	無料
		●所要時間	1.5時間
		●連絡先	東京都港湾局 総務部総務課 広報係(5320)5524
レインボーブリ ッジ	東京湾の大パノラマを、レインボープロムナード（遊歩道）からみられます。	●対象	制限なし
		●見学時間	4/1～10/31（9：00～21：00） 11/1～3/31（10：00～18：00）
		●料金	無料
		●連絡先	(5463)0224

出典：東京都中央卸売市場HP、公益財団法人 東京都環境公社HP
東京都港湾局HP、東京都立第五福竜丸展示館HP

■東京港社会科見学（対象：都内 小学校4年生～中学校3年生）



社会科見学期間、一般社団法人東京都港湾振興協会と東京都港湾局の共同事業です。

出典：東京都港湾局HP

■東京港の行政視察（対象：15歳以上(中学生は除く)の団体または個人)

【視察コース①】



【視察コース②（平成24年6月以降の火曜日のみ）【試行】】



出典：東京都港湾局HP

■利用マップ

東京都沿岸のレクリエーション施設や海上公園は沿岸域各区のHPや公園管理者などのHPで利用マップや観光ガイドとして紹介されている。

江東区の観光イラストマップ



◆国の油流対策（本編P 1-42）

一度油流出事故が起こってしまうと、その現場と周辺の海域及び沿岸域の環境を破壊し、生態系にも深刻な被害を与える。

そこで、全国のどこで油流出事故が発生しても、約 48 時間以内に現場に到着できるように、全国 3 か所の港に大型しゅんせつ船兼油回収船の配備が進められている。

東京湾内でのゴミや油の回収は、関東地方整備局京浜港湾工事事務所で横浜港を基地とする海面に浮遊するゴミと油を回収する兼用船「べいくりん」によって、東京湾 850km² の一般海域の環境整備を行っている。



清龍丸



大型しゅんせつ兼油回収船配備図



清掃兼油回収船「べいくりん」

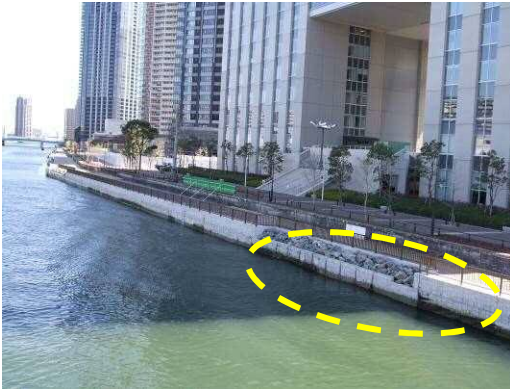
出典：関東地方整備局HP

中部地方整備局 名古屋港湾事務所HP

◆ 海域の浄化能力向上のための主な干潟、海浜等の整備（本編P1-42）

① 東京港豊洲運河、昭和島

水生生物の生息環境を向上させるため、平成19年度より海岸保全施設の一部をミニ磯場や緩傾斜護岸として整備している。



豊洲運河



昭和島

② 東京港中央防波堤東側水域

生態系に配慮した自然環境の再生・創出のため磯浜の造成を行っている。期間は平成18年度から整備を行い、平成26年度まで予定している。



③ 東京港羽田沖

生態系に配慮した自然環境の再生・創出のため、平成15年度～平成19年度に、浚渫土の活用による浅場の整備を行った。



出典：東京都港湾局資料

◆関連する諸計画（本編P 1-47）

○中央防災会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ
「首都直下地震の被害想定と対策について」（平成 25 年 12 月）

中央防災会議とは、内閣総理大臣を会長とし、防災担当大臣をはじめとする全閣僚、指定公共機関の長、学識経験者からなる会議で、次のような役割がある。

- 防災基本計画の作成及びその実施の推進
- 非常災害の際の緊急措置に関する計画の作成及びその実施の推進
- 内閣総理大臣、防災担当大臣の諮問に応じた防災に関する重要事項の審議(防災の基本方針、防災に関する施策の総合調整、災害緊急事態の布告等)等
- 防災に関する重要事項に関し、内閣総理大臣及び防災担当大臣への意見具申

従来の首都直下地震対策は、平成17年9月に中央防災会議で決定された「首都直下地震対策大綱」をもとに実施されてきたが、本報告書は東日本大震災を受けて、平成23年8月に内閣府に設置された「首都直下地震モデル検討会」において、2年以上にわたり見直し検討がなされたものである。

想定対象とする地震については、直下型では、被害が大きく首都中枢機能への影響が大きいと思われる都区部直下地震を設定し、また長期的な防災・減災対策の対象としては、相模トラフ沿いの海溝型の巨大地震である大正関東地震タイプの地震を考慮することが妥当としている。

本報告書の被害想定は、防災減災対策の検討に活かすことに主眼を置いてまとめられており、相互に関連して発生しうる事象に関し、対策実施の困難性も含め、時系列でより現実的に想定している。

対策の方向性については、従来の首都直下地震対策への取り組みは前提とし、新たに検討した被害から示された課題を中心に、特に困難性が伴う事項に関する対策について示されている。

○東京都地域防災計画（平成24年修正）

住民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としており、防災機関の所管に係る、予防、応急対策、復旧・復興対策について、対策の考え方、具体的な手順、取組の役割分担などを具体化したマニュアルの性格を持つものであり、計画は「震災編」「風水害編」「火山編」「大規模事故編」「原子力災害編」の計6編で構成されている。

その中で主に海岸に関するものは「震災編」「風水害編」「大規模事故編」であり、「大規模事故編」では船舶の衝突、沈没、座礁、火災、油流出等の予防や事故時の対策について示されている。

今回、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の経験から、従来の「首都直下型地震等による東京の被害想定」を見直し、新たな被害想定で明らかになった東京の防災上の課題や東日本大震災の教訓を踏まえて、地域防災計画の修正を行っている。

なお、今回の修正は「震災編」の修正を主たる内容としているが、津波等の水害対策や放射性物質等の修正内容については、「風水害編」「原子力災害編」の修正にも反映させている。

- 1) 「震災編」の修正ポイント
 - ・施策ごとの課題や達成目標を明示することで防災関係機関や都民との共通認識を醸成し、各主体による防災対策を促進
 - ・地域の防災力の向上や安全な都市づくりなどの施策ごとに、予防・応急・復旧といった災害のフェーズに応じて対策案を構築
 - ・より機能的な計画となるよう発災後の対応手順を明確化するなど、対策の内容を充実・強化

- 2) 「風水害編」の主な修正の概要
震災編における津波等対策を中心に、河川施設等の耐震化や広域避難などの対策を追加

- 3) 「原子力災害編」の主な修正の概要
従来の原子力緊急事態への備えに加え、東日本大震災の教訓を踏まえて、都内において原子力災害による放射性物質の影響が懸念される事態への対応を追加

○地震・津波に伴う水害対策に関する都の基本方針（平成24年8月）

東日本大震災では、日本における観測史上最大となるマグニチュード9.0の地震が観測され、東京においても、一部地域で震度5強を観測するとともに、既往の想定を上回る津波が発生した。

これを受けて、都が設置した学識経験者等による「地震・津波に伴う水害対策技術検証委員会」において、これまでの地震対策を検証し、平成24年8月に今取組むべき新たな対策のあり方についての提言を受けた。

この提言とともに、施設の耐震性能の照査結果等を踏まえた都の基本方針が策定され、地震・津波に伴う水害対策への取組みを一層強化していくことが示されている。

1 提言の主な内容

【耐震対策について】

地盤が低く水害の可能性のある沿岸部や低地帯では、マグニチュード8.2の海溝型地震等、将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動への対策に取り組むべき。

【耐水対策について】

水門、排水機場、ポンプ所、水再生センターの電気・機械設備については、堤防や水門の損傷等により浸水した場合にも機能が保持できるよう対策を実施すべき。

【水門操作等について】

現地操作を要する水門、陸こう、高潮防潮扉は、迅速かつ確実に閉鎖を行うために、遠隔制御システムの導入を検討すべき。

2 基本方針の主な内容

【目標】

マグニチュード8.2の海溝型地震等が発生した場合においても各施設が機能を保持し、津波等による浸水を防止するよう対策を実施する。

【考え方】

- ・ 想定津波高に対しては、現行計画の堤防高で対応可能である。
- ・ 東京都防災会議が示したマグニチュード8.2の海溝型地震等に対して、耐震強化を図る。
- ・ 各施設の電気・機械設備への浸水を防ぐ。
- ・ 優先度を考慮して整備を進める。

○2020年の東京（平成23年12月）

「2020年の東京」計画は、「10年後の東京」計画（平成18年度）の理念、基本的な考えを着実に継承し、これを充実・強化するとともに、東日本大震災後の新たな社会経済状況に対して、中長期的な視点からの的確に対応し、日本の再生と東京の更なる進化を目指して策定した新たな都市戦略である。

※「10年後の東京」計画の概要

- ・2016年の東京の姿（8つの目標）と、それに向けた政策展開の方向性を明示した都市戦略。

<10年後(2016年)に向けた8つの目標>

- 目標1：水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させる。
- 目標2：三環状道路により東京が生まれ変わる。
- 目標3：世界で最も環境負荷の少ない都市を実現する。
- 目標4：災害に強い都市をつくり、首都東京の信用を高める。
- 目標5：安心できる少子高齢社会の都市モデルを創造する。
- 目標6：都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する。
- 目標7：意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出する。
- 目標8：スポーツを通じて次代担う子供たちに夢を与える。

「2020年の東京」では、「10年後の東京」計画で掲げた目標を再構築し、新たに以下の8つの目標を掲げて今後の政策展開を図ることとしている。その中で防災対策、エネルギー政策を大きな柱に据えつつ、環境、都市インフラ、産業、福祉、教育、スポーツなど、さまざまな分野において、先進的な取組を展開していく方針が示されている。

1. 高度な防災都市を実現し、東京の安全性を世界に示す
2. 低炭素で高効率な自立・分散型エネルギー社会を創出する
3. 水と緑の回廊で包まれた、美しいまち東京を復活させる
4. 陸と海と空を結び、東京の国際競争力を引き上げる
5. 産業力と都市の魅力を高め、東京を新たな成長軌道に乗せる
6. 少子高齢社会における都市モデルを構築し、世界に範を示す
7. 誰もがチャレンジできる社会を創り、世界に羽ばたく人材を輩出する
8. 誰もがスポーツに親しみ、子供たちに夢を与える社会を創る

8つの目標達成に向けて、今後10年間で戦略的に展開していく以下の取り組みを、「『2020年の東京』を支える12のプロジェクト」と位置づけている。

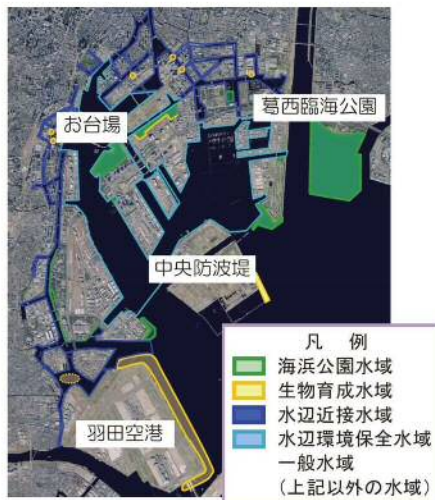
1. 耐震化100%プロジェクト
2. 木密地域不燃化10年プロジェクト
3. 防災共助プロジェクト
4. 東京産電力300万kw創出プロジェクト
5. スマートシティプロジェクト

6. 水と緑のネットワーク実現プロジェクト
7. 陸海空交通ネットワーク強化プロジェクト
8. アジアのヘッドクォータープロジェクト
9. 東京の保育力強化プロジェクト
10. 生涯現役プロジェクト
11. かわいい子には旅をさせよプロジェクト
12. 四大スポーツクラスタープロジェクト

海岸に関する主な項目は以下の通りである。

- 震災対策に集中的に取り組み、地震に負けない都市を創る
 - ・高潮や津波に対する安全性を確保するため、堤防等の整備を強力に推進する。
 - ・水門・排水機場等重要施設のさらなる耐震性の強化対策、および電気・機械の耐水対策を講じていく。また、堤防等について耐震性能照査等を行い、必要に応じ対策を講じる。
 - ・水門の開閉等を行う高潮対策センターを 2 拠点化し、センターと水門を結ぶ通信網や陸こうの操作機能の強化などを進める。
- 世界に誇るクリーンな都市環境を創出する
 - ・東京都内湾を、多彩な生物が生息し、自然浄化機能を備えた海へと再生するため、湾内の水質や海底の環境を改善する。

<東京都内湾の水域設定図>



<水域ごとの水質改善の方向性>

水域区分	水質改善の方向性
海浜公園水域	・自然環境の保全及び回復を図ることによる水生生物の持続的生息 ・都民が安心・快適に水と直接触れ合い親しめる
生物育成水域	・自然環境の保全及び回復を図ることによる水生生物の持続的生息 (特に赤潮や貧酸素水塊※1発生時)
水辺近接水域	・都民が主に陸域から、安心・快適に水と触れ合い親しみ、散策等ができる
水辺環境保全水域	・都民が主に海域から、安心・快適に水と触れ合い親しむことができる
東京都内湾の上記以外の水域 (一般水域)	・赤潮や貧酸素水塊の発生の抑制

※1 貧酸素水塊…生物が生息できないくらいに酸素の濃度が低下した状態の海水の塊が、広い範囲にわたり発生している状態

- 人が集い、賑わいが生まれる水辺空間を創出する
 - ・「運河ルネサンス」の新たな推進地区を指定を検討するとともに、推進地区内の関係者や推進地区同士の連帯を強化し、広域的な賑わい創出の取組みを展開する。
 - ・水上バスや水上タクシー等、民間事業者等による船着き場の整備を促すなど、多数の船の航行に対応する船着場を整える。

2. 海岸区分と海岸保全施設

◆排水機場（本編P1-57）

高潮発生時の閉鎖水域は江東地区、中央地区、港地区の浜離宮地区と芝浦地区の4箇所となる。

江東地区は、砂町排水機場と辰巳排水機場により排水を行う。中央地区については、島状地形であるため、流入水が他地区に比べ少ないので、排水は行わず貯留面積（運河部）で対応している。浜離宮地区および芝浦地区は、それぞれ浜離宮排水機場、芝浦排水機場で排水を行う。

なお、排水機場の排水能力は、閉鎖水域の水位が A. P. +2.5m 以下となるように設定している。

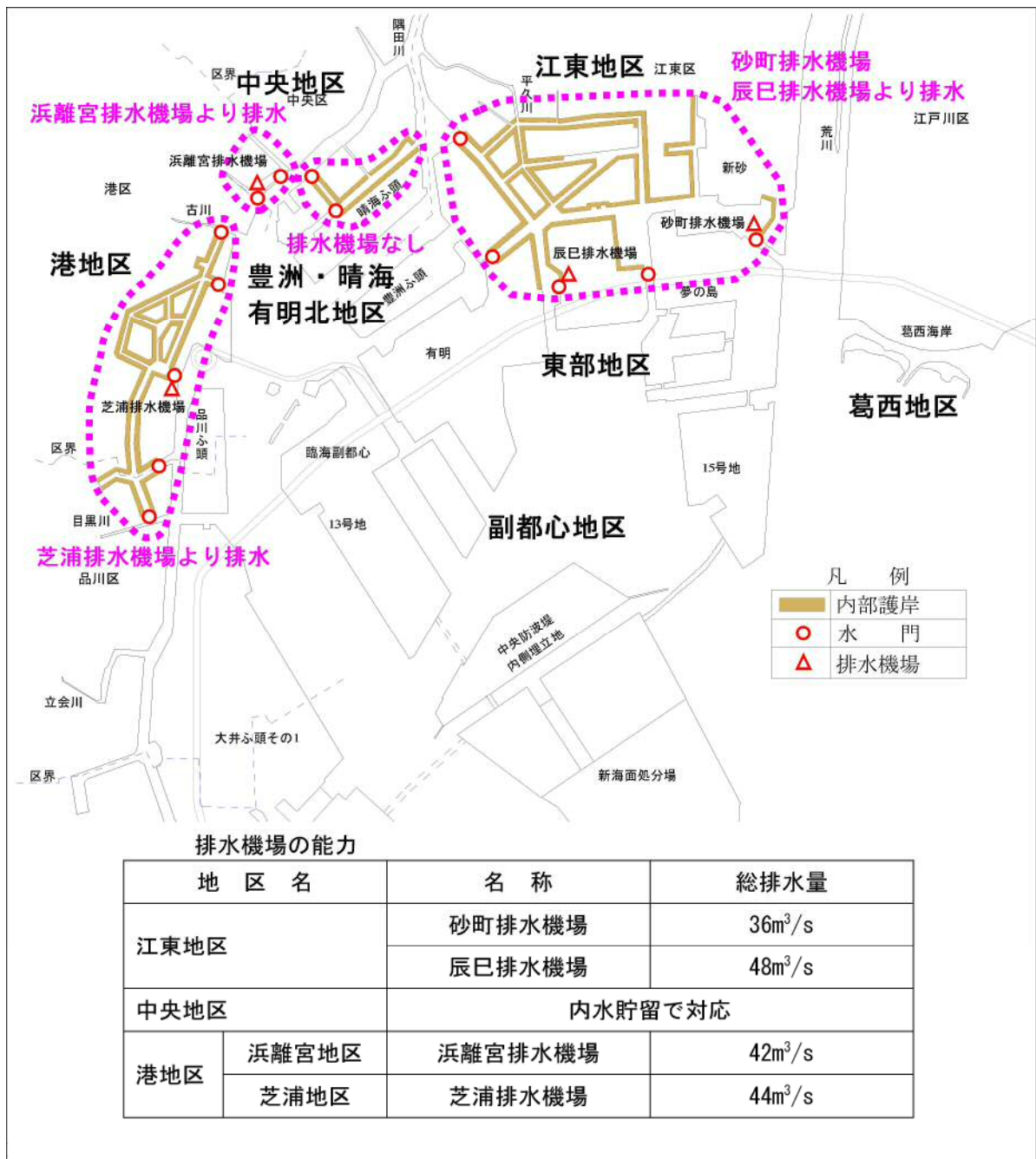


図 2-1 内部護岸、排水機場の役割